

令和 5 年度事業の実施状況について

1. 入館者数

(1) 令和 5 年度

109,277 人 (令和 5 年 4 月 1 日 (金) ~ 令和 6 年 3 月 31 日 (日))

(2) 開館から

253,589 人 (令和 3 年 11 月 3 日 (水祝) ~ 令和 6 年 3 月 31 日 (日))

2. 展覧会の開催状況

(1) 企画展・巡回展

展覧会名	観覧者数	満足度	会期 (日数)	備考
美しい HUG !	8,327 人	82%	R5.4.29 - 8.28 (122 日)	一般 500 円、高校生以下無料
ロートレックとベル・エポックの巴里-1900 年	7,520 人	90%	R5.11.3 - 12.25 (46 日)	一般 1,000 円、大学・高校生 500 円、中学生以下無料
【特別貸館】藤井フミヤ展 Fumiart2024	12,681 人	93%	R6.1.20 - R6.3.25 (58 日)	一般 1,000 円、高・大・専 500 円、中学生以下無料

< 年齢別 >

○令和 5 年度展覧会年齢別分析									
	合 計			美しいHUG !			ロートレックとベル・エポックの巴里		
	観覧者数	割合	全体割合	観覧者数	割合	全体割合	観覧者数	割合	全体割合
一般	9,529人	71.77%	60.13%	4,999人	72.76%	60.03%	4,530人	70.71%	60.24%
高・大学生	918人	6.91%	5.79%	507人	7.38%	6.09%	411人	6.42%	5.47%
小・中学生	1,328人	10.00%	8.38%	764人	11.12%	9.17%	564人	8.80%	7.50%
未就学児	370人	2.79%	2.33%	292人	4.25%	3.51%	78人	1.22%	1.04%
圏域65歳以上	1,132人	8.53%	7.14%	309人	4.50%	3.71%	823人	12.85%	10.94%
小 計	13,277人	100.00%	83.78%	6,871人	100.00%	82.51%	6,406人	100.00%	85.19%
招待・減免	2,570人	-	16.22%	1,456人	-	17.49%	1,114人	-	14.81%
合 計	15,847人	-	100.00%	8,327人	-	100.00%	7,520人	-	100.00%

< 居住地別 >

	市内	市外/県内	県外	不明	海外	計
観覧者数	8,161 人	3,164 人	4,311 人	148 人	299 人	16,083 人
割合	50.7%	19.7%	26.8%	0.9%	1.9%	100%

※総合案内で聞き取りできた方を集計しているため、上記展覧会の合計人数とは一致しない。

(2) コレクションラボ

展覧会名	観覧者数	会期（日数）	備考
コレクションラボ 005 奏でる工芸	8,525 人	R5.9.9 - 12.25 (87 日)	観覧無料
コレクションラボ 006 美の殿堂鈴木コレクション	10,308 人	R5.12.23 - R6.3.18 (72 日)	観覧無料
コレクションラボ 007 大久保景造と八戸文化	1,096 人	R6.3.23 - 7.8 (93 日) ※R6.3.31 現在	観覧無料

(3) 共催による展示 ※入館者数は、会期中の全館入館者数を記載

展覧会名	入館者数	会期（日数）	備考
八戸市美術展前期展示	2,309 人	R5.9.21 - 9.24 (4 日)	八戸市文化協会主催 書道・学生書道展
八戸市美術展後期展示	2,483 人	R5.9.28 - 10.1 (4 日)	八戸市文化協会主催 観覧無料／絵画・写真・生活文化
第56回八戸市小学校図画工 作展	4,683 人	R5.12.27 - 12.28 (2 日)	八戸市小学校図画工作科教育 研究会主催
新春屏風展	6,883 人	R6.1.2 - 1.22 (18 日)	帆風美術館主催
第60回八戸市中学校生徒美 術展	1,415 人	R6.2.29 - 3.3 (4 日)	八戸市中学校教育研究会美術 部会主催
仲條正義名作展	7,651 人	R5.4.22 - 5.21 (28 日)	仲條デザイン事務所・八戸市美 術館・八戸ブックセンター主催

3. プロジェクトの実施状況

(1) アートファーマープロジェクト

①建築ツアーガイド

令和3年度から継続。令和5年度は3期生を募集し、引き続き講座と実践を通して八戸市美術館の建物の魅力をより多くの人に伝える取組を実施した。講座では設計者の話を直接聞いて学ぶ場を設けたほか、十和田市現代美術館へ視察研修を行い、げんびサポーターとの相互交流を図った。また、今年度は新たにガイドの視点で八戸市美術館の建築の魅力を伝えるパンフレットを制作した。

■ガイドスタッフ参加者数：19名（1期生10名、2期生6名、3期生3名）

■活動実績：3期生を新たに募集して令和5年11月から活動開始。

講座4回、ガイド実施13日（毎月最終土曜日に定例で実施しているほか、イベント開催時などに不定期で実施）、ガイド後は毎回、茶話会（振り返りの会）を開催して次回以降の活動に活かしている。建築紹介パンフレット「知りたい！ハチビ！vol.1」発行。

②きむらとしろうじんじん野点プロジェクト

絵付けして焼き上げた茶碗で抹茶をいただきながら、まちの風景を楽しむ「野点」、出展者の妄想する「魅力の予感」を路上に持ち出す「妄想屋台」を実施した。

■アートファーマー参加者数：41名

■活動実績：おさんぽ会&説明会5回、リハーサル1回、野点本番2回、振り返りの会1回

③タノミマスプロジェクト

「美しいHUG!」の作品《タノニマス》を、アートファーマーと一緒に運営する《タノミマス》プロジェクト。お面と材料の下準備や、会期中の来場者へのお面制作の案内、お面の管理など作品の運営を行った。

■アートファーマー参加者数：27名

■活動実績：準備・レクチャー4回、会期中の運営（延べ192名）

④あそらぼ!

冬休みイベント「あそらぼ!創作パズル・ゲーム展」と一緒に運営するプロジェクト。八戸在住の木のからくり作家・高橋みのる氏をはじめとした「あそらぼ!実行委員会」と一緒に、展示作品について学びながら準備を重ね、会期中は展示作品の遊び方の案内や見守りを行った。

■アートファーマー参加者数：12名

■活動実績：準備・レクチャー3回、会期中の運営

⑤アートファーマーミーティング

「アートファーマープロジェクト」のこれまでとこれからを、これまで活躍してきたアートファーマーとアーティスト、そしてゲストとともに考えるミーティングを開催した。

■日時：令和6年3月16日（土）13:30～

■ゲスト：伊藤達矢（東京藝術大学社会連携センター教授）

■参加者数：30名

(2) 学校連携プロジェクト

①学校連携プロジェクトチーム運営

市内小中高校の図工・美術の先生と美術館学芸員、専門家で構成する「学校連携プロジェクトチーム」を運営し、活動拠点となる「学校連携ラボ」を館内に設置。また、団体見学の案内や対話鑑賞の実践的な研修等を行った。

■プロジェクトチームメンバー数：23名

■活動実績：全体会議3回開催、美術館新聞部（小学生と高校生による活動）、小中高教員向け朝鑑賞ファシリテーター研修会、団体見学案内など

(3) 大学連携プロジェクト

①三校連携「創作体験ワークショップ」

- ・概要：誰もが気軽に訪れることができる美術館を考えることを目的に、美術とは異なる分野の教員を講師とするワークショップを開催する。
- ・内容：八戸学院大学・八戸工業大学・八戸高専の三校の教員が講師となり、美術とは異なる分野の視点から「美術館へのアクセシビリティ」をテーマにしたワークショップを開催する。（5回程度）

ア 「認知症世界の歩き方～認知症の方が生きている世界を旅してみよう～」

- 開催日時：令和5年10月29日（日）10：30～12：00
- 講師：岩館 亜沙美（八戸学院大学短期大学部 介護福祉学科 講師）
- 参加者数：12名

イ 「ダンボール工作でオリジナルの人形とブロックを作って遊ぼう！」

- 開催日時：令和5年11月4日（土）13：30～15：30
- 講師：鈴木 康弘（八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 講師）
- 参加者数：22名（子ども11名、保護者11名）

ウ 「ブリリアント・ミネラル」

- 開催日時：令和5年11月19日（日）10：30～12：30
- 講師：土屋 範芳（八戸工業高等専門学校 校長）
- 参加者数：9名（小学生）

エ 「英語で手作りクリスマスクラフト」

- 開催日時：令和5年11月23日（木・祝）10：30～12：30
- 講師：グレゴリー・アンソニー（八戸学院大学 地域経営学部 地域経営学科 教授）
- 参加者数：20名（小学生10名、保護者10名）

オ 「僕の私の小さな家づくり」

- 開催日時：令和5年11月26日（日）10：30～12：30
- 講師：福士 譲（八戸工業大学 工学部 工学科 准教授）
- 参加者数：18名（第1部10名、第2部8名）

②学生×社会人のアートの学び実践講座事業（全3回）

- ・概要：学生と社会人が一緒に交流し、様々な課題や研究テーマについてディスカッションする場を設け、学生や社会人が美術館での学びを社会で実践できる講座を開催する。

・内容：外部講師を招聘し、学生と一般参加の社会人が一緒にワークショップやディスカッション等を行いながら、個々の違いを楽しめるような創作キットを考える講座を開催する。

ア 第1回「国の紹介と地球環境を守る取り組みについて」

■開催日時：令和5年9月16日（土）10：00～12：00

■参加者数：18名

イ 第2回「伝統文化とアート“和菓子”をつくろう！」

■開催日時：令和5年11月5日（日）10：00～12：00

■参加者数：19名

ウ 第3回「地域と世界をつなぐサステナブルな未来へ」【ハイブリッドセミナー】

■開催日時：令和6年1月19日（金）18：00～19：30

■視聴者数：合計42名（日本13名、トルコ9名：大学生と教授、ウクライナ5名：教授、スイス25名：中学校）

③美術館のアクセシビリティ向上事業

概要：子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出するため、八戸学院まちなカラボを活用した取組を行う。

ア 「託児サービス」

美術館の展覧会の会期中、「八戸学院まちなカラボ」に、保育士を目指している学生が運営する託児スペースを開設する。（集客が多く見込める土日などを中心に8日程度）

場所：八戸市美術館 2階 八戸学院まちなカラボ

実施日時	利用者数
2023年 6月25日（日）10:00～16:00	7名
2023年 7月30日（日）10:00～16:00	9名
2023年 8月27日（日）10:00～16:00	6名
2023年 9月24日（日）10:00～16:00	1名
2023年 10月29日（日）10:00～16:00	2名
2023年 11月26日（日）10:00～16:00	5名
2023年 12月10日（日）10:00～16:00	9名
2024年 1月21日（日）10:00～16:00	11名

イ 「ベビーファーストデー」

会 場：八戸市美術館

展覧会開催期間中の休館日に、小さな子供とその家族が気兼ねなく鑑賞できる日「ベビーファーストデー」を運営する（2日程度）

実施日時	利用者数
2023年 11月 7日（火）13:00～16:00	5組16名
2023年 11月 28日（日）13:00～16:00	11組28名

④賑わい創出事業

美術館に来たことがない、美術館は自分と縁遠い場所と思っている市民向けに、美術分野にこだわらず集客が見込める事業を実施し、美術館をより身近なものに感じてもらうとともに、中心街活性化や回遊性向上に寄与するためのイベントを開催した。

イベント名	会期	内容
ゴールデンウィークイベント	R5.5.5-5.7	デジタルライブペインティング、アートボードゲーム体験
美術館の夏休み 2023	R5.7.29-8.19	PUTI PUTI LAND（プチプチランド）、ワークショップ縁日、三社大祭山車絵展、ナイトミュージアム、夏休み工作室、作品鑑賞会「コレクションセレクション」、アートで頭と心をリフレッシュ！
ヨルニワ	R5.6.10、10.14	八戸市更上閣・八戸ポータルミュージアム「はっち」・八戸市美術館を会場に、キッチンカーや飲食屋台と音楽ライブを楽しむ屋外イベント。
音楽の夕べ	R5.10.12	全国都市問題会議の開催にあわせ、音楽イベントを開催。
現代八幡馬展～いまを駆ける～	R5.10.9-10.15	市内で創作活動する作家たちが絵付けした八幡馬を展示。
あそらぼ！創作パズル・ゲーム展	R5.12.23-R6.1.14	八戸在住のからくり作家・高橋みのる氏をはじめとする「あそらぼ！実行委員会」による、遊びをテーマにした体験型展示、ワークショップ及び講演会
えんぶり公演	R6.2.18	妙えんぶり組によるえんぶり披露
キッチンカー出店	平日中心に不定期	美術館前広場にキッチンカーが出店

4. 貸館利用

市内外で活動している個人・団体が、美術館の建物の特性を活かして展覧会のみならず様々な活動で利用しており、出会いと交流の場の創出につながっているほか、美術館の集客にも寄与している

2023（令和5）年度 特別貸館一覧

番号	貸出期間	事業名	主催	会場
1	2023年10月6日～8日	第44回青森県高等学校総合文化祭 〈三八・上北大会〉美術部門	青森県高等学校文化連盟	ジャイアントルーム、ホワイトキューブ、ギャラリー1・2、スタジオ
2	2023年10月12日～15日	第44回青森県高等学校総合文化祭 〈三八・上北大会〉書道部門	青森県高等学校文化連盟	ジャイアントルーム、ホワイトキューブ、ギャラリー1・2、スタジオ

2023（令和5）年度 一般貸館一覧

番号	貸出期間	事業名	主催	会場
1	2023年4月1日	アストロダイス占い講座 ～自分軸を育むために占いを活かす～	西洋占星術師 mei.solve	会議室3
2	2023年4月6日	アストロダイス占い講座 ～自分軸を育むために占いを活かす～	西洋占星術師 mei.solve	会議室3
3	2023年4月7日～9日	第32回 大日本書芸院 八戸地区連合書道展	大日本書芸院八戸地区連合	ギャラリー1・2
4	2023年4月20日	令和5年度 第1回 まちの魅力創生ネットワーク会議	八戸市政策推進課	スタジオ
5	2023年4月22日～24日	建築家の仕事展／青森	日本建築家協会東北支部	ジャイアントルーム、スタジオ
6	2023年4月22日	谷尻 誠 講演会（建築家の仕事展／青森 関連企画）	日本建築家協会東北支部	スタジオ
7	2023年5月7日	一緒に作ろう!! ペーパーフラワー!!	久保田久美絵	ジャイアントルーム
8	2023年5月13日	リオンの朗読会	リオンの会	スタジオ
9	2023年5月14日	池坊八戸支部役員会会議	池坊八戸支部	会議室2
10	2023年5月17日	アストロダイス占い講座 ～自分軸を育むために占いを活かす～	西洋占星術師 mei.solve	会議室3
11	2023年5月20日～28日	もざいく-描くこと、言葉、素材が紡ぐ物語り-	社会福祉法人愛育福祉会、JIREA	スタジオ
12	2023年5月21日	アトリエ実践プログラム（もざいく-描くこと、言葉、素材が紡ぐ物語り-）	社会福祉法人愛育福祉会、JIREA	スタジオ

13	2023年5月21日	アストロダイス占い講座 ～自分で占い、自分で整える～	西洋占星術師 mei.solve	会議室 3
14	2023年5月25日～29日	松橋洋司写真展	松橋洋司	ギャラリー1
15	2023年5月27日	フォーチュンシアター八戸 演劇ワークショップ	フォーチュンシアター八戸	ワークショップルーム
16	2023年5月28日	そらにじあおもり	そらにじあおもり	ワークショップルーム
17	2023年6月3日	三遊亭楽八 独演会	三遊亭楽八	スタジオ
18	2023年6月5日	アストロダイス占い講座 ～自分で占い、自分で整える～	西洋占星術師 mei.solve	会議室 3
19	2023年6月8日～12日	水に関するポスター・写真展	八戸圏域水道企業団	ギャラリー1
20	2023年6月9日	子どもと本 研修会	八戸ブックセンター	ワークショップルーム
21	2023年6月16日～18日	第43回イーゼル会絵画展	イーゼル会	ギャラリー1・2
22	2023年6月17日	アストロダイス占い講座 おしゃべり内覧会	西洋占星術師 mei.solve	会議室 3
23	2023年6月18日	一緒につくろう!!ペーパーフラワー!!	k.bloom.mooij	ジャイアントルーム
24	2023年6月23日～25日	グループ坂展	グループ坂	ギャラリー1・2
25	2023年6月24日	北奥羽現展会議	北奥羽現展	会議室 3
26	2023年6月29日	令和5年度第3回八戸市総合計画等推進市民委員会	八戸市政策推進課	スタジオ
27	2023年6月30日～7月2日	米内安芸写真教室 第20回写真展「step by step」	米内安芸写真教室	ギャラリー1・2
28	2023年6月30日	絵本講座「絵本を探検する」	八戸ブックセンター	ジャイアントルーム
29	2023年7月7日～9日	第40回 青森二紀グループ展	青森二紀グループ	ギャラリー1・2
30	2023年7月14日～16日	第5回東光会絵画 東北支部展	東光会東北支部	ギャラリー1・2
31	2023年7月17日	アダージョドルチェ オカリナコンサート 雨と森の調べ	オカリナラボ アダージョ	スタジオ
32	2023年7月18日～19日	多文化交流ラボ「しゃべるべ」	八戸市市民連携推進課	ワークショップルーム

33	2023年7月21日～23日	アトリエオガワ絵画教室作品展 第20回 樹の会展	アトリエオガワ絵画教室・ピアノ教室	ジャイアントルーム展示エリア1・2、ギャラリー1・2
34	2023年7月21日	令和5年度第4回八戸市総合計画等推進市民委員会	八戸市政策推進課	スタジオ
35	2023年7月26日～30日	絵本「ハルクんの虹」画家・佐藤泰生原画展	一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブ	ギャラリー2
36	2023年7月27日～29日	絵本「ハルクんの虹」著者・上斗米正子トークライブ	一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブ	ギャラリー2
37	2023年7月27日～30日	親子で参加できる多言語ワークショップ（絵本「ハルクんの虹」画家・佐藤泰生原画展）	一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブ	スタジオ
38	2023年8月6日	8エコフェス2023 環境にやさしいエコアートを楽しもう	八戸市市民環境部環境政策課	スタジオ、ジャイアントルーム
39	2023年8月7日	親子で参加 企業見学バスツアー	青森朝日放送	スタジオ
40	2023年8月10日～13日	石橋直樹 日本画作品展	石橋直樹	ギャラリー2
41	2023年8月12日～13日	FASHION×ART HANDWORKS	CUSTOM WEAR CREATOR RYU-TA	ジャイアントルーム展示エリア2
42	2023年8月12日～13日	～作ろう!!お絵描きフラワー!!	k.bloom.mooij	ジャイアントルーム
43	2023年8月18日	はちのへアート広場 ひろば交流会	八戸市文化創造推進課	スタジオ
44	2023年8月18日～19日	こども絵画コンクール展覧会	住友生命保険相互会社	ギャラリー2
45	2023年8月19日	みな実古琲店創立50周年チャリティーライブ	みな実古琲店	スタジオ、マエニワ
46	2023年8月23日	絵画制作勉強会	東光会東北支部	ジャイアントルーム
47	2023年8月24日	令和・南部藩会議（担当課長会議）	八戸市政策推進課	スタジオ
48	2023年8月25日～27日	季心書道展	季心書道会	ギャラリー1・2
49	2023年8月26日	性的マイノリティ関連講座	八戸市市民連携推進課	ワークショップルーム

50	2023年9月9日 ～10日	第15回 日本教育書道会 三八地区書道展	日本教育書道会 三八地区連合会	ジャイアントルーム 展示エリア1・2、 ギャラリー1・2
51	2023年9月9日	リオンの朗読会	リオンの会	スタジオ
52	2023年9月13日	絵画制作勉強会	東光会東北支部	ジャイアントルーム
53	2023年9月14日 ～16日	防災フェスタ 2023 図画コンクール	八戸地域幼年消防 クラブ連絡協議会	ジャイアントルーム
54	2023年9月15日 ～17日	前田雍子油絵展	前田雍子	ギャラリー1・2
55	2023年9月16日 ～17日	ドキッ 美クール	外館 昭一	スタジオ
56	2023年9月16日 ～18日	THE 切り絵'S「中澤 均 切り絵灯籠展」	中澤 均	ブラックキューブ
57	2023年10月19日 ～22日	10th anniversary photo exhibition 「はちや写真館」これまでと これからと、	蜂屋雄士	ギャラリー1・2
58	2023年10月19日 ～22日	Dream Together! ～みんなの夢をのせて!～ HAPPY BULLDOG 展	Happy Bulldog	ジャイアントルーム
59	2023年10月19日	会議利用	株式会社金入	ワークショップルーム
60	2023年10月20日 ～22日	おわりがはじまる	Spiral Antenna	スタジオ
61	2023年10月21日 ～22日	フォーチュンシアター八戸 演劇ワークショップ	フォーチュンシアター八戸	ワークショップルーム
62	2023年10月23日	令和5年度第8回八戸市総合計画等推進市民委員会	八戸市政策推進課	スタジオ
63	2023年10月25日	絵画制作勉強会	東光会東北支部	ジャイアントルーム
64	2023年10月26日 ～30日	日本画・イメージの形象 小野定展	小野定	ギャラリー1・2
65	2023年10月28日	Cinematic Art Museum 1028	デーリー東北新聞社	ジャイアントルーム
66	2023年11月1日	第73回東北六県英語教育研究大会分科会	青森県英語教育連絡協議会	スタジオ
67	2023年11月8日	東光会東北支部研究会	東光会東北支部	スタジオ
68	2023年11月9日 ～12日	八戸焼窯元二代目 渡邊真樹作陶展	渡邊真樹	ギャラリー2

69	2023年11月10日～12日	第20回 青森県中学校総合文化祭 〈八戸市・三戸郡大会〉	青森県中学校文化連盟、青森県教育委員会	スタジオ、ジャイアントルーム、ワークショップルーム
70	2023年11月10日～12日	第44回 八戸陶芸合同展 アマチュア陶芸家達の祭典	八戸陶芸愛好会 (八戸焼泥んこ倶楽部、階上陶芸クラブ)	ギャラリー1
71	2023年11月18日～19日	MOA美術館 八戸児童作品展	MOA美術館八戸児童作品展実行委員会	スタジオ、ジャイアントルーム
72	2023年11月25日～26日	八戸市鷗盟大学 第44回大学祭 総合美術展	八戸市鷗盟大学、八戸市鷗盟大学学友会	ジャイアントルーム展示エリアⅠ・Ⅱ、ギャラリー1・2、スタジオ
73	2023年11月30日～12月4日	吉田初三郎パネル展	八戸市観光課	スタジオ
74	2023年12月9日	こうせん・美術館アートコラボ まちなか文化祭 2023	八戸工業高等専門学校	ジャイアントルーム、スタジオ
75	2023年12月13日	建築士向け 非住宅施設への県産材利用に関する勉強会	青森県林政課	ジャイアントルーム
76	2023年12月14日	第11回 リオンの朗読会	リオンの会	スタジオ
77	2023年12月16日～17日	Pretty and Versus	俊文書道会	スタジオ、ギャラリー1
78	2023年12月16日～17日	24h	八戸工業大学	ギャラリー2
79	2023年12月18日	クリスマスの贈り物 (弦楽コンサート)	インフィニートコラルコ	スタジオ
80	2023年12月20日～21日	第62回黒潮書展	黒潮書道会	ギャラリー2
81	2023年12月23日～24日	melt the border 霊性とテクノロジー	石亀広大	ギャラリー1
82	2023年12月27日～28日	第56回八戸市小学校図画工作展	八戸市小学校図画工作科教育研究会	ギャラリー1・2
83	2024年1月6日～8日	書文化研究寄遠會 三人展	書文化研究寄遠會	ギャラリー1・2
84	2024年1月26日	第4回 介護・高齢福祉専門分科会	八戸市介護保険課	スタジオ

85	2024年1月27日～28日	第47回青森県高等学校教育研究会書道部会心聲會展	青森県高等学校教育研究会書道部会	ギャラリー1・2
86	2024年1月27日～28日	フォーチュンシアター八戸 演劇ワークショップ	フォーチュンシアター八戸	ワークショップルーム
87	2024年2月3日～12日	第27回 NHKハート展 DIVE to the HEART! ハートにとびこめ!	NHK 青森放送局、八戸市、NHK 厚生文化事業団、全国社会福祉協議会	ギャラリー1・2
88	2024年2月3日	国際ソロプチミスト八戸 第45回ユースフォーラム	国際ソロプチミスト八戸	スタジオ
89	2024年2月4日	池坊八戸支部会議	池坊八戸支部会議	スタジオ
90	2024年2月10日	金子由里奈映画祭 めいぐるみとしゃべる人はやさしい&眠る虫上映/トークショー	inter-mission	スタジオ
91	2024年2月11日	北奥羽現展会議	北奥羽現展	会議室2
92	2024年2月11日	「荒木悠のHAPPY HOUR」【アカデミック・トーク】	八戸ブックセンター	スタジオ
93	2024年2月17日～19日	2023年度 八戸工業大学感性デザイン学部卒業研究成果展	八戸工業大学感性デザイン学部	ギャラリー1・2、スタジオ、ジャイアントルーム展示エリア1・2
94	2024年2月20日	キッチンカー出店 Pizza217		マエニワ
95	2024年2月22日～26日	松本佳子・ニツ森護真 二人展 えんぶりの根	ニツ森護真	ギャラリー1
96	2024年2月22日	第3回はちのへ文化のまちづくりアドバイザリーボード会議	八戸市文化創造推進課	スタジオ
97	2024年2月23日	令和5年度 元気な八戸づくり若者シンポジウム	NPO 法人地域活性化教育支援ネットワーク	スタジオ、ジャイアントルーム
98	2024年2月23日	フォーチュンシアター八戸 演劇ワークショップ	フォーチュンシアター八戸	ワークショップルーム
99	2024年2月24日	ギャラリートーク・えんぶり実演 (松本佳子・ニツ森護真 二人展 えんぶりの根関連)	ニツ森護真	ギャラリー1
100	2024年2月28日	絵画制作勉強会	東光会東北支部	ジャイアントルーム

101	2024年3月9日 ～11日	第11回墨縁書展	墨縁書道会	ギャラリー1・2
102	2024年3月9日	上十三・三八核医学技術交流会	PDRファーマ株式会社東北支社	スタジオ
103	2024年3月13日	絵画制作勉強会	東光会東北支部	ジャイアントルーム
104	2024年3月15日 ～17日	第16回硯親書道会書展	硯親書道会	ギャラリー1・2
105	2024年3月17日	8サポ meets コミュニティ活動報告会	はちのへ創業・事業承継サポートセンター	ジャイアントルーム
106	2024年3月21日 ～25日	こどもはっち春休みこども文化事業 いそやまたかゆき写真展	こどもはっち	ギャラリー1・2
107	2024年3月22日 ～23日	青森県看護連盟三八支部基礎研修	青森県看護連盟三八支部	会議室1
108	2024年3月23日	フォーチュンシアター八戸 演劇ワークショップ	フォーチュンシアター八戸	ワークショップルーム
109	2024年3月24日	特別ワークショップ（こどもはっち 春休みこども文化事業 いそやまた かゆき写真展関連）	こどもはっち	ジャイアントルーム
110	2024年3月24日	池坊八戸支部役員会	池坊八戸支部	会議室1
111	2024年3月29日 ～31日	第52回八戸臨泉会書展/ 第75回八戸臨泉会学生書道展	八戸臨泉会	ギャラリー1・2、 ジャイアントルーム 展示エリア1・2、 スタジオ

2023（R5）年度 貸館説明会

- ・2023年8月27日（日） 会場：スタジオ
- ・2024年3月30日（土） 会場：ワークショップルーム

5. 社会科見学・視察・団体旅行ツアー受入れ状況

市内外から視察や学校の社会科見学、団体旅行ツアーを受入れしている。

項目	受入件数	人数	備考
社会科見学	25 校	752 人	市内：29 校／市外：6 校
視察	55 件	577 人	事前申込のあったもののみ／R6.3 月末時点での集計
団体旅行ツアー	22 件	473 人	全て市外／R6.3 月末時点での集計

6. 中心街への波及効果

美術館で実施したアンケート調査の結果では、来館した際に中心街の施設やサービスを利用した方が約 7 割となっており、多くの来館者が中心街へ流れていることが伺えるほか、6 割以上の方が 1,000 円以上消費しているとの回答が得られており、美術館利用者の回遊と購買による経済波及効果はあるものと考えられる。

◆アンケート調査結果について

集計期間：令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月

回答人数：107 人

① 美術館以外の中心街施設やサービスを利用した人の割合

項目	人数	割合
利用した	80 人	75%
利用していない	15 人	14%
無回答	12 人	11%

② 上記利用した方のうち、利用した施設・サービス（上位 10 項目）

項目	人数	割合
はっち	34 人	17.1%
昼の飲食	33 人	16.6%
宿泊施設	23 人	11.6%
マチニワ	18 人	9.0%
八戸ブックセンター	16 人	8.0%
夜の飲食	16 人	8.0%
民間駐車場	16 人	8.0%
買い物（食料品）	15 人	7.5%
買い物（食料品以外）	10 人	5.0%
八戸市公会堂・公民館	6 人	3.0%

※複数回答可

③美術館来館者が中心街の施設やサービスで消費した金額

項目	人数	割合
1,000 円未満	25 人	23%
1,000 円～5,000 円	39 人	36%
5,001 円～10,000 円	10 人	10%
10,001 円以上	15 人	14%
無回答	18 人	17%

7. 受賞歴（令和 5 年度）

(1) 2022 年度 JIA 日本建築大賞（2023 年 4 月）

日本国内における、その年度の優秀な建築作品を選定、記録し、その活動と業績を広く社会に伝えることにより、文化としての建築の価値を上げる事を目的に毎年実施されている。228 作品の応募の中から、大阪中之島美術館と並んで大賞を受賞。（所管：日本建築家協会）

（受賞理由）

JIA 建築賞の意義は、建築としての完成度が極めて高いという作品性だけではなく、人々の生活空間としての都市の未来に如何に貢献できるか、という視点から捉えることも重要である。「八戸市美術館」は今までの美術館のイメージを大きく変えるもの。設計者が「ラーニング・センター」と呼ぶように、この美術館は八戸市のこれまでの文化芸術活動をベースに、これからの市民の活動の拠点となる“広場”としての建築である。計画のコンセプトもプロポーザルでの設計者の提案によるもので、八戸市民の多様な活動への大きな期待が込められている。長い時間が経過した将来、この美術館を改めて訪れてみたい。

(2) 第 33 回八戸市景観賞 公共施設・公共空間部門（2023 年 11 月）

八戸市の景観づくりに寄与していると認められる建築物等や活動の事例を表彰、周知することにより、景観づくりに対する市民の関心を高め、市民一人ひとりが地域の特長を活かし、潤いと安らぎに満ちた魅力あるまちづくりに貢献することを目的として、昭和 62 年度から実施。（所管：八戸市都市整備部都市政策課）

（受賞理由）

八戸の中心部に建つ建物として風格と現代を感じさせると同時に、美術館前の広場が都市空間として周辺環境にとけ込み調和がとれている。新しい美術館のコンセプトの体現と、中心市街地を文化芸術エリアとしてさらに発展させていく公共施設として、今後の中心街の景観形成の核になることを期待したい。

(3) 第 33 回 AACA 賞 優秀賞（2023 年 12 月）

建築、美術、工芸、ランドスケープなど様々な分野が協力し、融合して創造された文化的環境と美しい芸術的景観を対象として、これらを実現させた個人、グループ、団体を毎年表彰する賞。

（所管：日本建築美術工芸協会）

（受賞理由）

圧倒的なジャイアントスペースが特徴的な《八戸市美術館》はこれからの美術館のあり方を根本的に問い直す次世代の美術館で、市民協働による多彩なアート活動を支える創造型の施設。市内にはユニークな取り組みとして、まちなか広場「マチニワ」や、「八戸 ブックセンター」がある。それらと共に市民の方々に親しまれ、愛され、今後の活動に期待したいと思う。

八戸市美術館 令和 5 年度来館者動向報告 概要版

1. 開館日数・来館者数データ

開館日	令和 3 年 11 月 3 日（水・祝）
集計期間	令和 5 年 4 月 1 日（土）～令和 6 年 3 月 31 日（日）
開館時間	10：00～19：00（入場は 18：30 まで）
休館日	火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始（12 月 31 日、1 月 1 日）
開館日数	314 日間
備考	

(1) 入館者数：109,277 人 観覧者数：28,564 人

観覧者数は、「美しい HUG!」、「ロートレックとベル・エポックの巴里-1900 年」、「藤井フミヤ展 Fumiart2024」の観覧者数を合算したもの。同時期に開催しているコレクションラボ及び市民ギャラリーでの展覧会の観覧者数は含んでいない。

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行を受けて、旅行需要の回復とともに、多くの来場者が来館し、来館者の目標値である 9 万人を上回った。

(2) 来場者数測定方法

来場者数は以下の方法にて測定した。

- ・美術館正面入口での来場者数自動測定器（来場者数カウンター）による測定
- ・美術館受付でのチケット販売等による来場者数、属性の測定

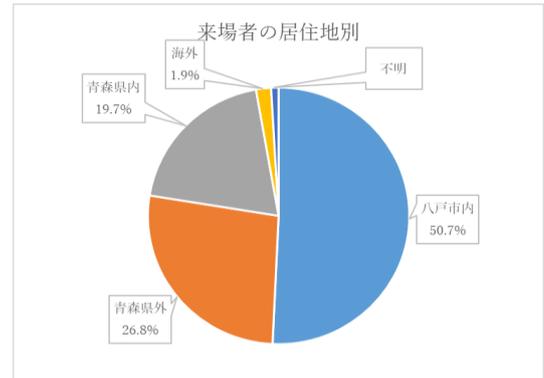
2. 各種割引・チケットシステムの導入（特別貸館「藤井フミヤ展」を除く）

- ・同じ展覧会を何度でも観覧できるフリーパス「かおパス」を販売。
料金は展覧会ごとに設定。（一般・65 歳以上それぞれ通常の 1.5 倍の料金設定）
- ・近隣の有料駐車場を利用していることがわかる駐車券などの提示により、運転者 1 名分に団体割引を適用している。
- ・八戸市連携中枢都市圏域（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）にお住まいの 65 歳以上の方を割引適用としている。

3. 市内・市外・県外の割合

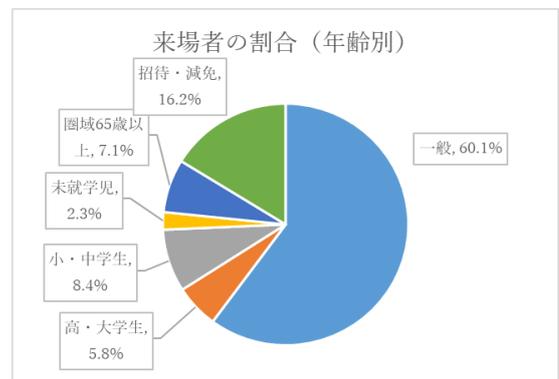
八戸市内からの来場者の割合（50.7%）と、市外（青森県内）及び青森県外からの来場者の割合（45.5%）が同程度であり、広く市内外から来場している。

海外からの来場者は約 300 人（1.9%）が来館しており、インバウンド需要の回復に合わせて、さらなる来場が期待される。



4. 来場者の割合（年齢等）

一般の来場者数の割合が 60.1%である一方、未就学児から中学生までを合算すると 10.7%に達しており、若い世代も一定の割合で訪れており、「学び」をテーマとした本美術館の方針に合致する来場者割合となっている。また、65 歳以上の方の割合は 7.1%であることから、老若男女、幅広い世代が来館していることがうかがえる。一方で、高校・大学生の割合は 5.8%と低く、本美術館が実施しているアートファーマーなどへの参画などにより、割合が増加することが期待される。



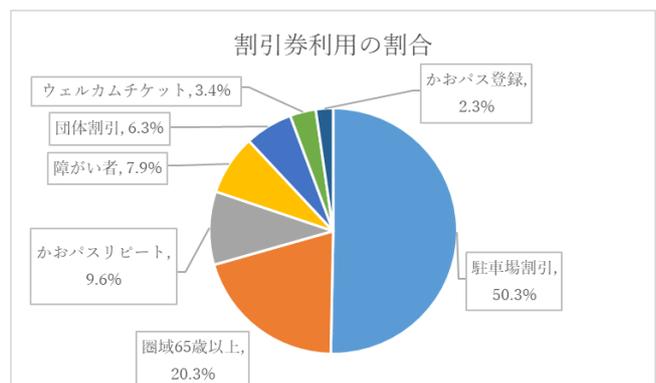
5. 割引券利用の割合

展覧会チケットについて、「かおパス」や「駐車場利用割引」等の割引料金設定を導入している。

駐車場割引が 50.3%と多く利用されているほか、シニア割引（市内圏域 65 歳以上割引）も 20.3%利用されている。

令和 4 年 3 月から導入した「かおパス」は、好きな時に何度でも同じ展覧会を観覧できるフリーパスであり、新規購入は 2.3%であったものの、

2 回目以降に来場する「かおパスリピート」は 9.6%利用されていることから、一定の需要はあることが伺える。



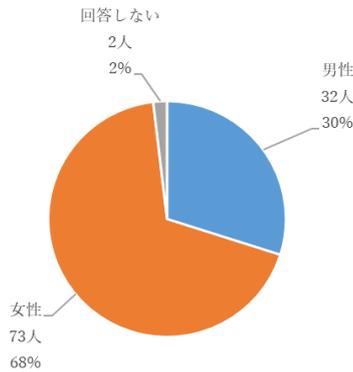
八戸市美術館 令和5年度アンケート概要版

1. 調査概要

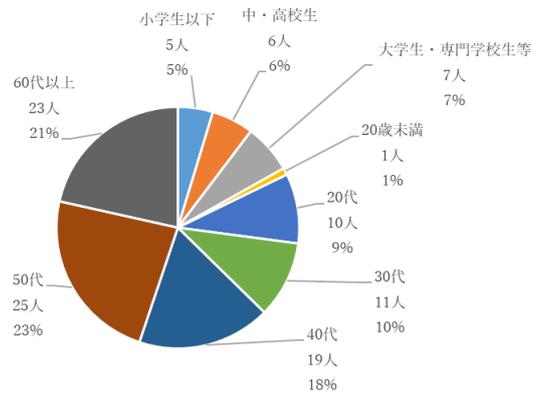
集計期間 令和5年4月1日（金）～令和6年3月31日（日）
 回答者数 107人
 実施方法 通年で総合案内付近にアンケート用紙を設置

2. 回答者の属性

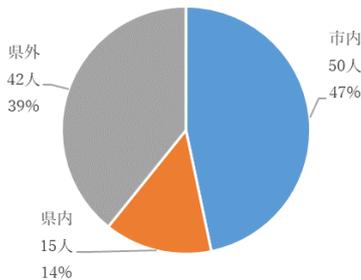
◆ 性別



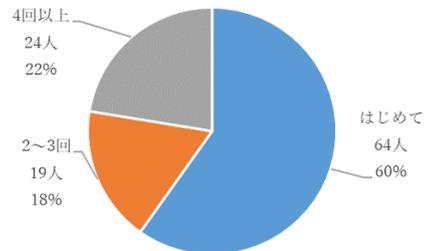
◆ 年齢



◆ お住まい



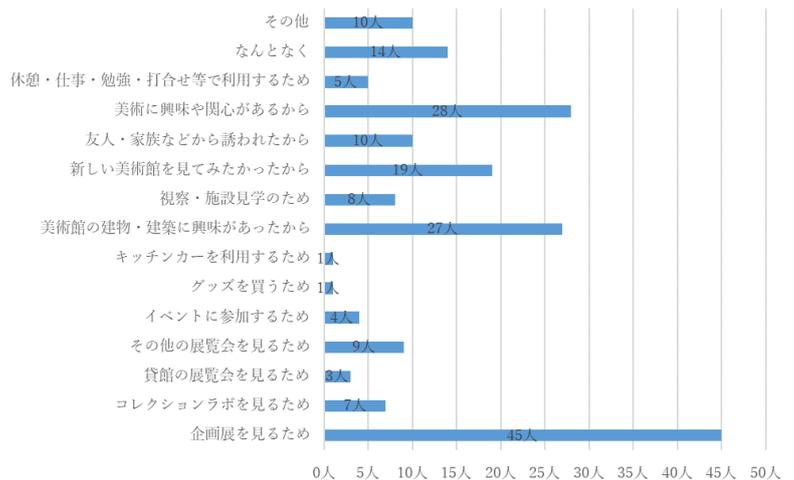
◆ 来館回数



3. 調査結果

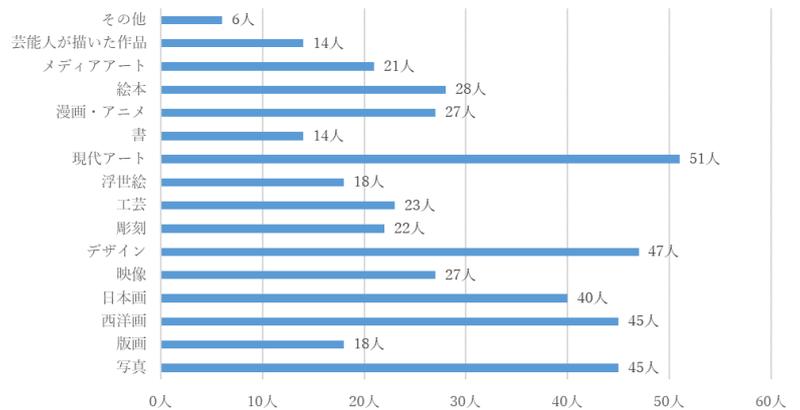
(1) 来館した動機は何ですか。(複数回答可)

「企画展をみるため」が45人と最も多く、次いで、「美術に興味や関心があるから」(28人)、「美術館の建物・建築に興味があったから」(27人)、「新しい美術館を見てみたかったから」(19人)となっている。



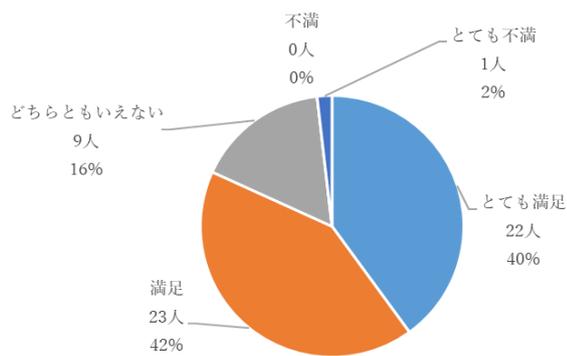
(2) 見に行きたいと思うジャンルは何ですか。(複数回答可)

「現代アート」が51人と最も多く、次いで、「デザイン」(47人)、「西洋画」(45人)、「写真」(45人)、「日本画」(40人)となっている。

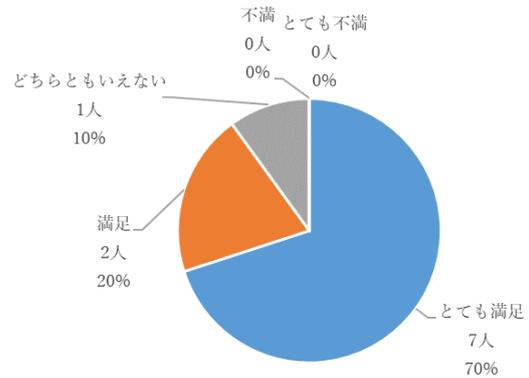


(3) 展覧会満足度

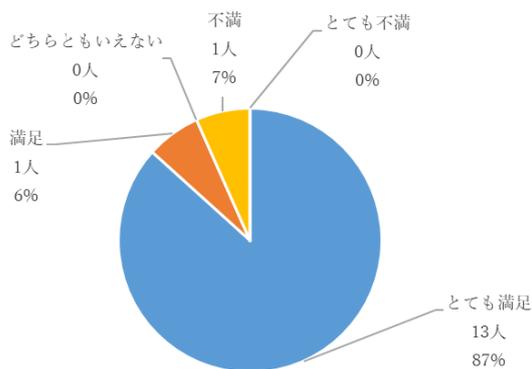
◆ 企画展「美しいHUG！」



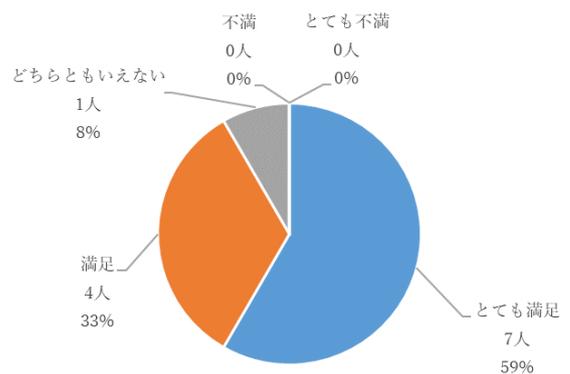
◆ 企画展「ロートレックとベル・エポックの巴里—1900年」



◆ 共催展「藤井フミヤ展 Fumiyart2024」



◆ コレクションラボ展示



- ・「とても満足」と「満足」をあわせた満足度は全て80%以上。
- ・満足度が最も高いのは共催展「藤井フミヤ展 Fumiyart2024」で93%。次いでコレクションラボ展示(92%)、企画展「ロートレックとベル・エポックの巴里—1900年」(90%)となっている。

アートファーマーアンケート結果

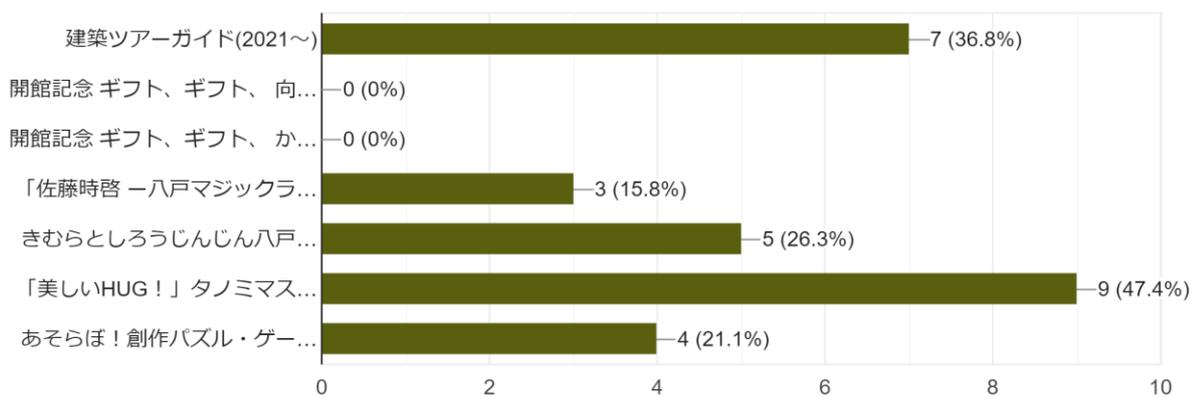
1. 調査概要

集計期間	令和 6 年 3 月 25 日 (月) ~31 日 (日)
対象プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・ 建築ツアーガイド(2021~)・ 開館記念 ギフト、ギフト、 向井山朋子パフォーマンス「gift」(2021)・ 開館記念 ギフト、ギフト、 かだるアート 浮世絵編 (2021~2022)・ 「佐藤時啓 ー八戸マジックランタンー」リヤカーメラプロジェクト (2022)・ きむらとしろうじんじん八戸野点 (2022、2023)・ 「美しいHUG！」タノミマスプロジェクト (2023)・ あそらぼ！創作パズル・ゲーム展 (2023~2024)
回答者数	19 人
実施方法	グーグルフォームで回答

2. 回答者の属性

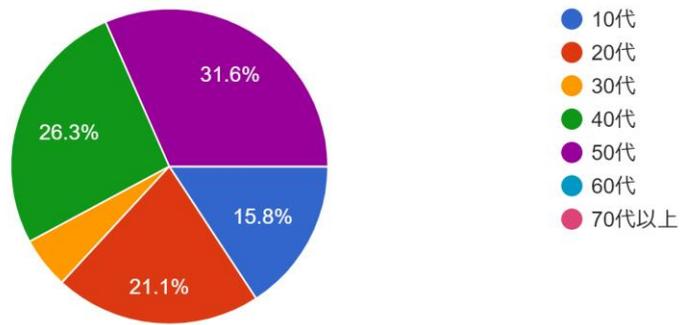
これまでに参加したプロジェクト (複数選択可)

19 件の回答



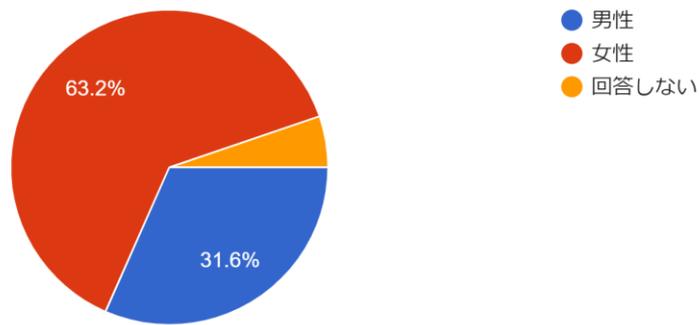
年齢

19 件の回答



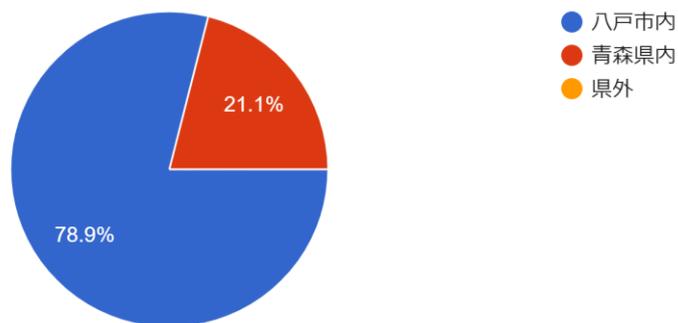
性別

19 件の回答



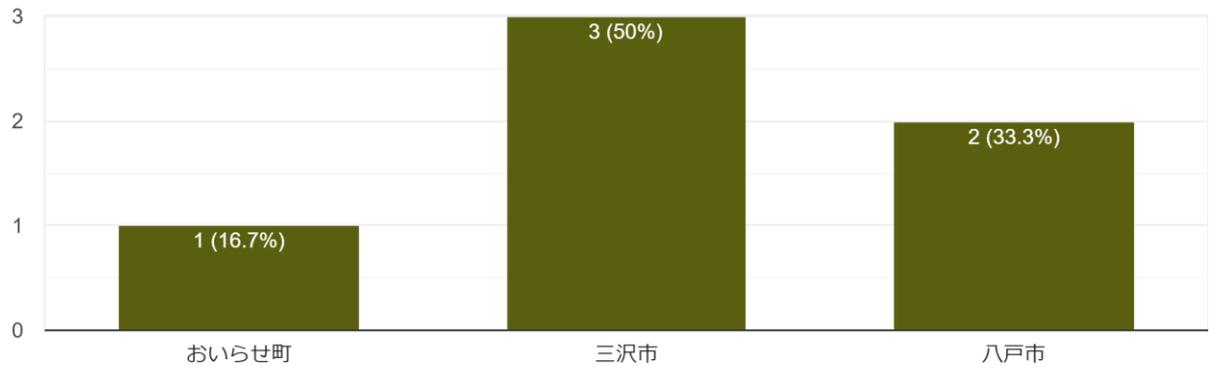
居住地

19 件の回答



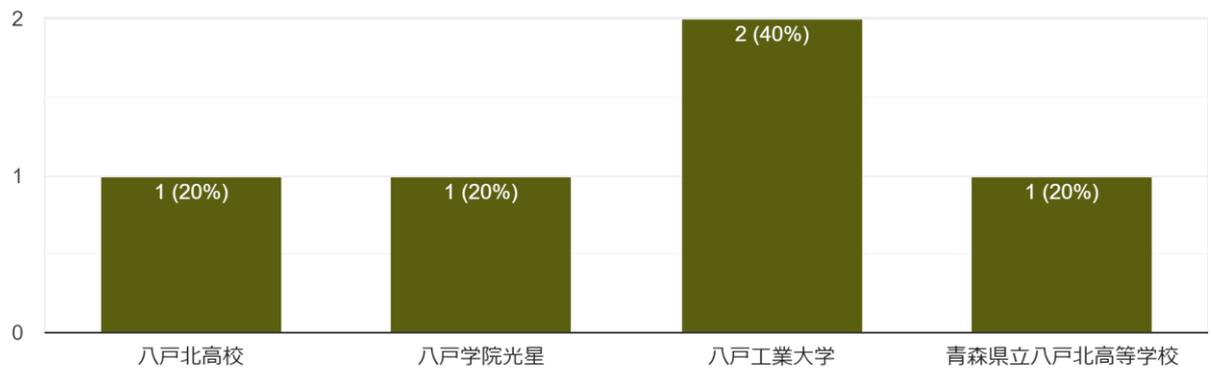
(居住地が県内・県外の場合) 市町村名

6件の回答



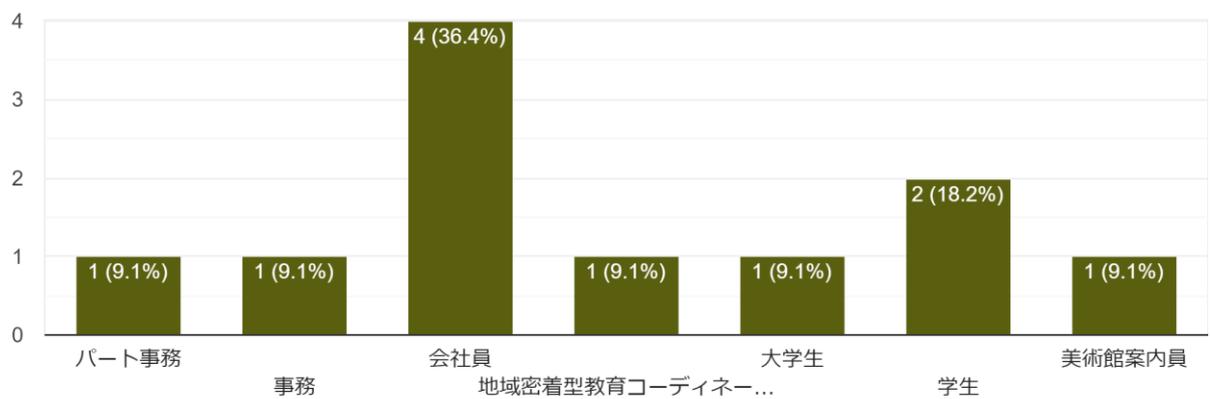
学校名 (任意)

5件の回答



お仕事 (任意)

11件の回答



どのようなことを期待して、プロジェクトに参加しましたか。

19 件の回答

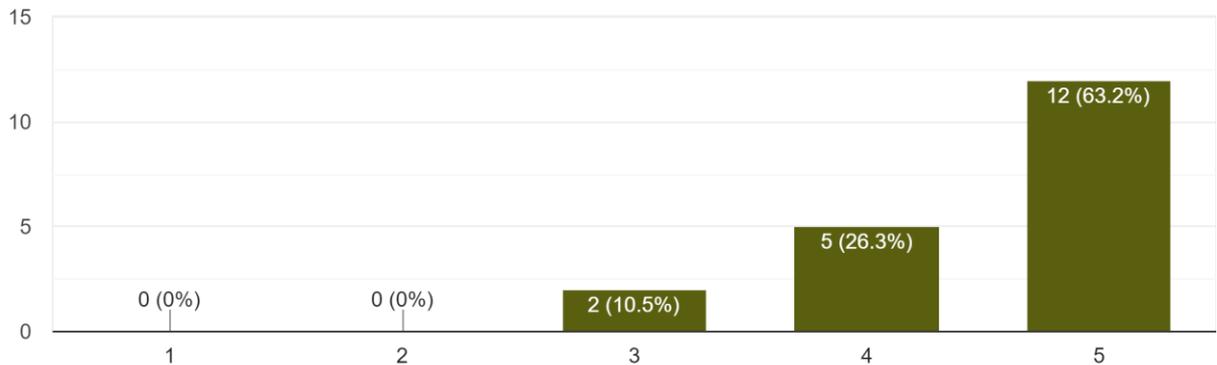
- ・面白そうだと思って
- ・作品について理解が深まると思い参加した。
- ・作家さんとの交流と作品が出来るまでの工程に係ることが出来る感動。
- ・色々な人と出会って交流できること、繋がりを持てること
- ・大学受験の自己PRにできるような内容が濃い活動
- ・個人的にワークショップ(もの作り)が好きで、その活動を支える側に興味を持ち、その事がコーディネーターの活動に生かせるのではと、期待したからです。
- ・企画に参加してもらうにはどうしたらよいか、どのような流れで進めるのか、会期中どのような活動支援かできるのかを、学校以外で、ジャンルを超えて活動体験する事で、自分たちコーディネーターに足りないことは何か、どんなやり方があるのか自ら体験する学べるチャンスだと思ったので、参加させていただきました。
- ・企画運営する側、体験する側、支援する側、を枠を超えて学び体験し、各々の職場や仲間と共有することで、もっと社会がつながることを期待してこれからも参加していきたいし、仲間を増やしていければ思っております。
- ・わくわく
- ・新たな価値観を求めて
- ・地域の方との交流
- ・大学に行くプラス要素になればいいなと思い参加しました。
- ・楽しそう。みんなが集まって何かをすることが面白そうだから。
- ・特に期待していたことはなかったが、前から来てほしいと思っていたアーティストが来るので参加してほしいと友人に誘われて参加した。
- ・参加してみて楽しかった。イベント当日よりもワークショップが楽しかったし、イベントをサポートする仲間との交流も楽しかった。
- ・そして、参加してみて八戸市美術館がやりたいことやどう美術館を使ってほしいかが少しわかった気がした。
- ・言葉にするのは難しいと思いますが、プロジェクトの継続が地域の人たちが八戸にこの美術館があることの意味を知って行く方法だと思うので色々言われて大変だと思いますが突っ走ってください！
- ・お茶に興味があって気になったため
- ・純粋に八戸美術館がどのような過程で出来上がったのか。
- ・その構造と表に出てこない思いを知りたかった。
- ・じんじんさんにお会いしてお茶碗に絵付けをする事。
- ・アートへの関わり
- ・八戸美術館の魅力を伝えることで、美術館のファンを増やしていきたい！
- ・プロジェクト自体に興味があり、アーティストさんを中心にみんなで話し合い、協力し合って、みんなが笑顔になって、楽しめるプロジェクトになる事を期待して参加させていただきました。
- ・ボランティア活動という体験をあまりしてこなかったもので、どのように運営しているのか、どういったスケジュールで動いているのかなどを知りたかった。

3. 調査結果

(1) プロジェクトに参加した感想をお聞かせください。

地域に対する新たな発見がありましたか。

19件の回答



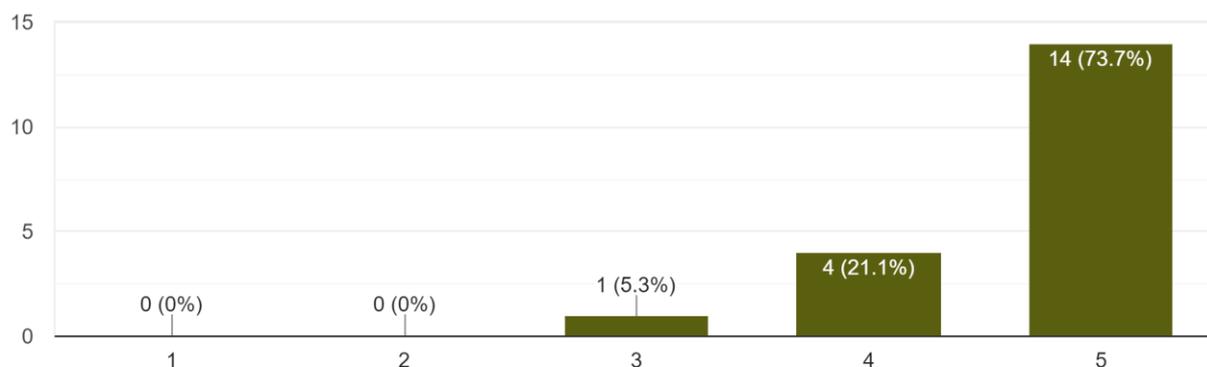
どのような発見がありましたか？（任意）

10件の回答

- ・面白くなる可能性を感じた
- ・埋もれているアート好きな方々
- ・八戸にこうやって市民の方と交流できる場所があること
- ・市民の美術館への意見、美術館のありかたなど
- ・実は、八戸には様々なジャンルで、とても素晴らしい才能を持つアーティストさんたちがたくさんいるんだってということがわかった！と、ということが発見でした。
- ・意外と冷たくなかった
- ・アーティストの視点を経ることで、いままで気づかなかった八戸の新たな魅力を知ることができたこと。特に、八戸工場大学・Co 部屋・リアカメラで佐藤時啓先生と長期間ご一緒できたこと。
- ・普段見慣れている景色を新たな視点で見ることができた
- ・今までの一方通行な美術館ではなく、たくさんの方が関わり、色んなことが巡っていた。
- ・県外から転居してきて間もなかったので、先輩アートファーマーの皆様から地域の情報を沢山教えて頂き新たな発見だらけでした。八戸に移住してきた方にはアートファーマー参加をおすすめします！

創造力を刺激されるような体験がありましたか。

19件の回答



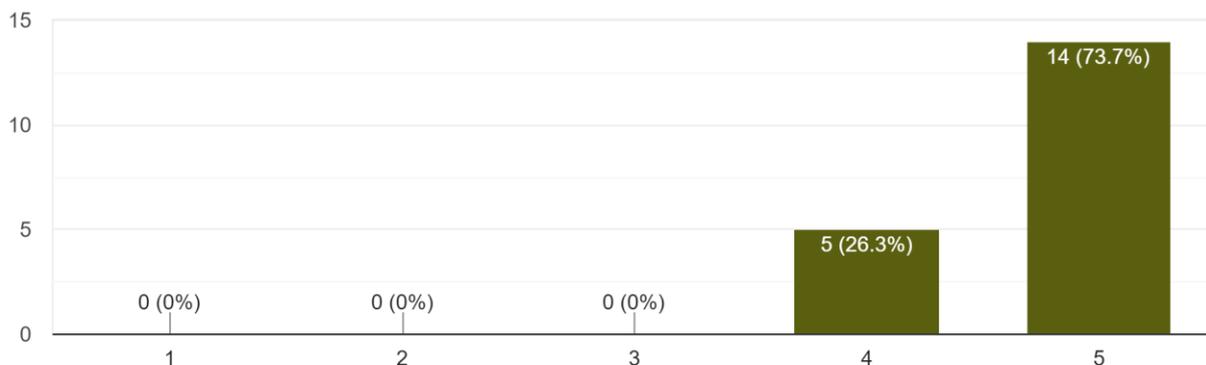
具体的にどのような場面で創造力が刺激されましたか。(任意)

10件の回答

- ・野点のお茶碗絵付け参加者を見て多様な絵柄がある楽しさを見た
- ・【リアカメラ】そのモノ自体がカルチャーショックでした。またマジックランタンも、こんなところに！と刺激だらけでした。【タノニマス】十人十色で一つとして同じようなモノが出来上がらない面白さに圧倒されました。
- ・(建築ツアーガイドの) 山本さんのガイドを聞いた時の自由さ
- ・タノニマスでは、年齢問わずたくさんの来館者が、指定された限られた材料をいかようにも使い、楽しそうに自由に創作する姿を日々見る事ができ、衝撃の連続でした。
- ・タノニマスで、皆さんが思い思いに楽しそうに製作している姿を見ていて、私も何かを作りたい！と思っていたところに、次に参加したあそらぼで、ネームバッチを作ることになったので、私なりに頑張ってみました。
- ・自作のお面を作った
- ・「何か才能が求められるのではないかと」とアートファーマーへの応募をためらう人もいるかと思うが(私も2013年に1度応募を見送ったことがある)、やってみるとヘタでも簡単なモノでも全然問題が無いことが分かったこと。
- ・場所を巡って、もしもこの場所で出来たらどうなるか考えたらわくわくしました
- ・案内ひとつにも たくさんの見方がり人の数だけ目の付け所があった。
- ・アートファーマーのお仲間と活動する中で、それぞれの着眼点の違いに刺激を受けました。

能動的な学びの機会となりましたか。

19件の回答



具体例に、どのような学びがありましたか。

19件の回答

- ・他の建物を見て、どんな意図があるのかちょっと考えるようになった
- ・具体的な制作手法(プロジェクト型制作の資金繰り、人材確保など)
- ・【作家さん】作品への思いを知ること、作品のメッセージを理解できた。【来場者】作品に触れ体験することでの感動から発せられる新たなアイデア【ファーマー】様々なスキルを持った方々の能力が結集されてできあがるチームワークと仕組み
- ・様々なバックグラウンドを持っている人だからこそ話せることを実際に生で聞いて、自分と比較して違いを知ったり、違いについて考えたりすること
- ・大人としての行動
- ・アート・ファーマーの活動がコーディネーターの活動にとっても通ずるものがあり、コーディネートする側される側の思いや支援の仕方を実践で学びました。
- ・作ったり遊んだりしている方々が楽しく気持ちよくすごせるよう、案内やアドバイスなど私なりに工夫を重ねてみました。
- ・様々な考え、柔軟
- ・活動数が多いから
- ・人との関わりなどが増えて刺激になりました
- ・活動の入口は10年ほど前の「八戸工場大学」だったが、工場について学び・表現することからアートプロジェクトのこと、美術館リニューアル後は美術館にも興味を持つようになったこと。
- ・心理的安全性がないと自由な表現ができない。
- ・陶芸の奥深さ
- ・ホローするということ。小さいお子さんづれや障がい者への接し方
- ・普段接点の無い方々と説明を受けて、スムーズに行く為に声を掛けたり協力する事で、色々な考えに対応できた。絵付けにいらした方々のデザインを見る事も楽しくて刺激になりました。
- ・アートに関わる人たちとの出会いにより、知らなかった事を教えていただくことができ、また、様々な考え方や感じ方がある事を学んだ

- ・美術館と市民との関わりについては、内側に入ったからこそその学びでした。
- ・見知らぬ来館者に声をかけ、各参加者の個性、コンセプトの違いに驚かされました。
- ・積極的な声掛けをすることの大切さ

あなたにとって、「アートファーマープロジェクト」はどのようなものですか？

19 件の回答

- ・新たな視座を得るきっかけ
- ・作品の世界観を共有する人と出会える場
- ・美術館を核にコミュニケーションのすばらしさを知り、アートの楽しみをより深く感じ理解できる場。
また、たくさんの人に知ってもらいたいポジティブでクリエイティブな仕組み。
- ・自分を変えてくれた一つの居場所
- ・市民同士のコミュニティを形成することができるプロジェクト
- ・楽しい嬉しい大大好きな活動です。実はおしゃべりで、お節介で、誰かと話したい、困ってる人を助けたい、自分もなんなら一緒に楽しみたい、そんな方に超おすすめのプロジェクトだと思っています。行きたい時、参加できる時間に、無料で楽しめるアソビ！という感覚です。
- ・楽しむもの
- ・新たな価値観学ぶ機会
- ・寂しくない芸術活動
- ・これからじぶんはそういうのに携わっていきたいなと思っていたのでいい機会になりました
- ・(美術館を含め) 家や会社とは別の「もう1つの居場所」
- ・八戸でのアートという意味と価値を知る。アートと生活は身近であるということを確認する場所。
- ・新たな発見があるところ
- ・毎回、目から鱗 です
- ・1人では出来ない事を体験出来る場。
- ・新世界の入り口
- ・美術館を通して自らを表現できる場所
- ・外、未知への繋がり。
- ・アートを通して地域の方々と交流を深める体験をさせてもらえるプロジェクト

プロジェクトに参加して、最も印象に残っていることを教えてください。

17 件の回答

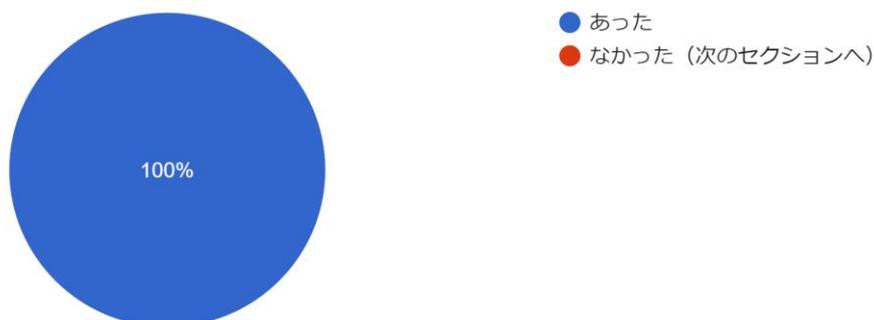
- ・ジャイアントルームで溶接をしたアーティストもいる。と説明したら、機械科生徒が自らが学んでいる事が美術にも繋がるのか！と驚いていた現場に居合わせた時がある。
- ・【タノニマスのタノミマス】美術館スタッフの誕生日をタノさんとファーマーみんなでお祝いできたこと。
- ・とにかくいろんな人に出会って助けてもらってること
- ・様々な職業の方とお話できたこと
- ・日本語しか話せない私が、手振り身振りで海外の方に説明し、制作やゲームを楽しんでもらえた事。

- ・帰りのバス停で、あそらぼ！を楽しんでくれた親子と会い、お子さんがまた来るねと、バスの中から見えなくなるまで私に手を振ってくれためっちゃくちゃ嬉しかった事。
- ・勉強していた高校生にドラゴンやゲームの説明をし、実際に制作された方々のところへ行きご紹介お話ししてみたら、「これ、授業でやったヤツだ！こんな仕組みだったのか！」と、教科書で学んだことが実際に目の前でみれて理解できた、しかも楽しいゲームに応用されている。と、いう奇跡的な体験をしました。コーディネーターの活動にも通ずる、うれしい体験でした。
- ・タノミマスを見学だけしていった保育園(?)の団体さん。「今日は見るだけだから、今度お家の人に連れてきてもらってお面作ってみてね」と先生が言ったのに対して「うちのママはこういうとこ来ないの」と一人の女の子が言った一言が忘れられない。『こういうとこ』とは？あの子はママとどんなところへお出かけしてるのかな？と、今でも考えてしまう。
- ・お面の穴あけ作業で班の人が早まって褒めてくれた
- ・タノミマスのお面作りです
- ・企画展が終わると展示室から作品は無くなってしまいが、プロジェクトに集まった「人のつながり」は残ること。また、世代を超えた人との出会いがあること。特に昨年のタノミマスPJでは高校生から人生の大先輩まで、参加しなければ皆さんとの出会いは無かったと思う。これまで、プロジェクトはそれぞれバラバラという印象を持っていたが、先日のミーティングを機会にお互いを知り、交流するきっかけとなってほしい。展示される「モノ」だけでなく、美術館に集う「ヒト」の輪が広がってほしい。
- ・美術館のイメージが変わった！いい意味で。
- ・お手伝いした時の達成感
- ・皆さん 興味を持つところが違うなー
- ・年齢や立場に関係なく参加した全ての人同志が学びあい、協力して楽しい体験ができたこと。美術館スタッフの方々が楽しみながらも頑張っている姿を間近で見て、感動したこと。
- ・人との出会い
- ・笑顔。

(2) プロジェクトに参加したことによる「自身の変化」について教えてください。

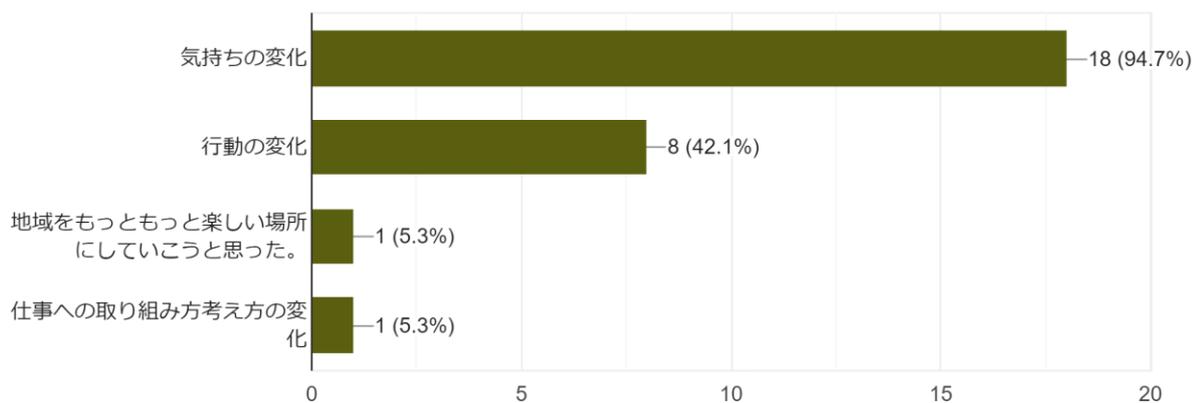
プロジェクトに参加することで、自身にとってよい変化がありましたか。

19件の回答



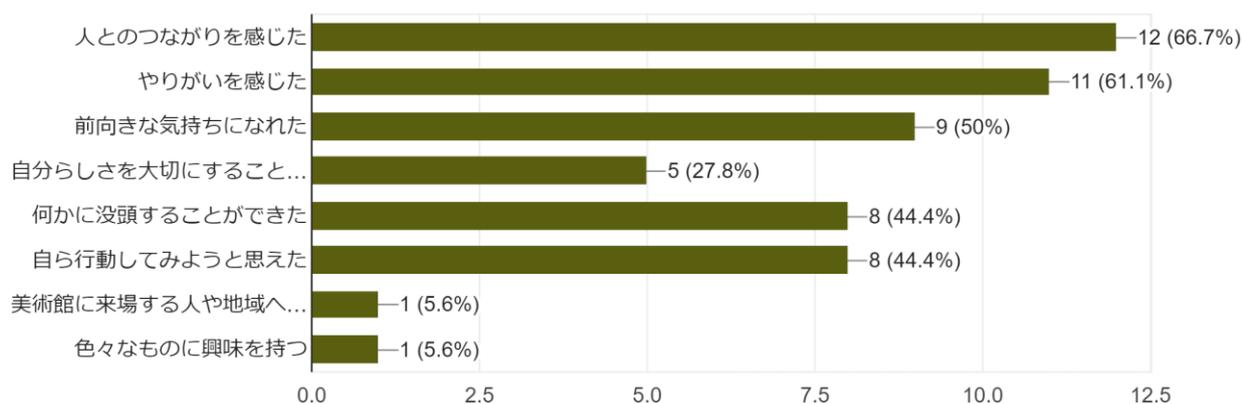
【変化があったと回答した方】それはどのような変化ですか（複数可）

19件の回答



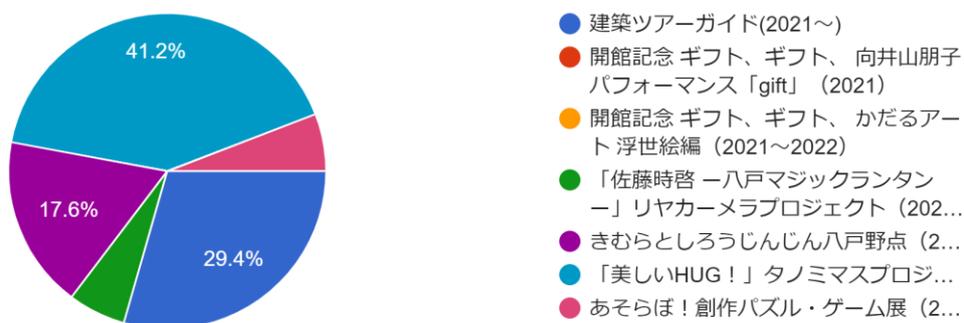
【「気持ちの変化」と回答した方】あてはまるものを選んでください。（複数可）

18件の回答



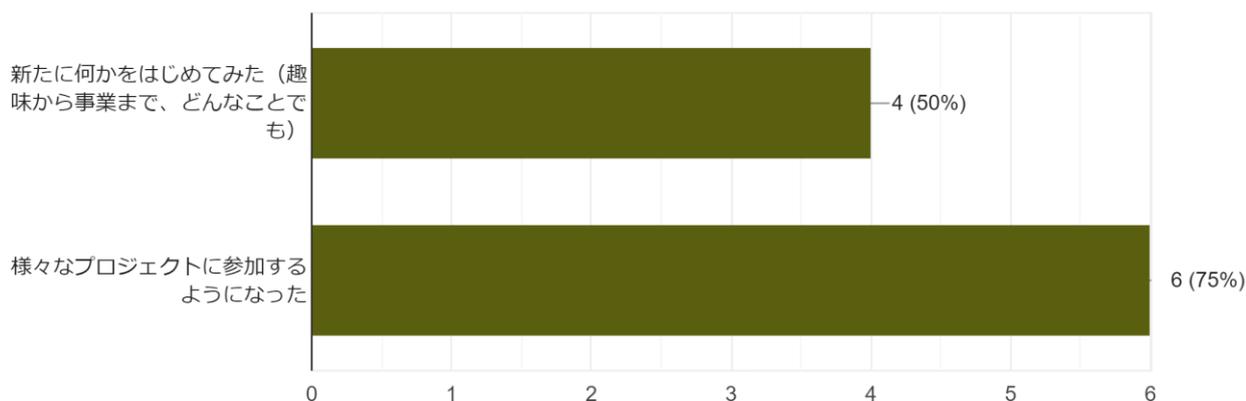
【「気持ちの変化」と回答した方】最も影響を受けたプロジェクトを教えてください。

17件の回答



【「行動の変化」と回答した方】あてはまるものを選んでください。（複数可）

8件の回答



【上記の設定で「新たに何かをはじめてみた」を選択した方】

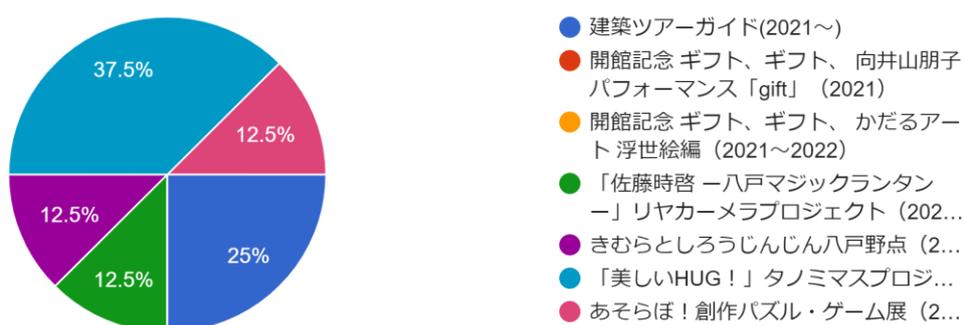
具体的にどのようなことに取り組んでいますか？

4件の回答

- ・ meetium (自主企画)
- ・ コーディネーターとして地域に積極的に関わる、知る、学ぶ、共有する事をするようになりました。
- ・ 人から他の美術館のことを聞くうちに、自分でも実際に行ってみようと思うようになったこと。
- ・ アートと地域で何ができるか。自分ができる小さなことを考えたりちょっとやってみたりする。

【「行動の変化」と回答した方】最も影響を受けたプロジェクトを教えてください。

8件の回答



(2) これからのアートファーマープロジェクトについて

興味があること、今後取り上げてほしいことがありましたら教えてください。

9 件の回答

- ・模型作家展、写真家展
- ・学生の方々に、興味をもってもらい参加できる企画、学生主体が活動をし自ら考えてもらう場、仲間作りができるプロジェクトを作りたいです。
- ・八戸の隠れ名物、穴場紹介
- ・ポケモンなどアニメとのコラボ✦
- ・県内各美術館のボランティアさんと交流する機会があれば、八戸市美術館だけでなく（距離が離れているけど）県内5館のつながりを深めることができると思います。
- ・1、保育園や学校への出張ガイド 2、八戸市内のガイドとの連携でできること
- ・野点は是非来年度も開催していただきたいです。
- ・日比野こずえさんの個展。器と料理のライブ。陶芸家とシェフやパティシエがその場で創作するライブ。多くの美術館ではできないこと
- ・tupera tupera のかおてんに興味があります。

アートファーマーによる自主企画ができるようになったら、やってみたいことはありますか？

13 件の回答

- ・対話する事で美術館の使い道や新たな楽しみを広げて伝える企画
- ・ワークショップ
- ・妄想屋台の定期開催がたのしそう
- ・meetium 第二弾、三弾、やってみたいです
- ・子どもクリエイターを支える育てる活動。外での活動。美術館巡りツアー。アートファーマー広報部(西塚隊長)。子どもたちの居場所づくり活動。
- ・妄想屋台！じんじんさんと一緒だと華やかになるのは当然ですが、じんじんさんが来れなくても、年に一度は妄想屋台！
- ・大阪みたいな立体看板の作成
- ・地域とアニメとのコラボです
- ・どちらかといえば自分自身が前面に出るよりも「裏方」の方が得意だと思うので、アートファーマーさんによる企画があれば、ぜひお手伝いしたいです。
- ・他の館協力前提ですが 1、美術館完結ではなく、街中にある強みで街歩き型での箱ものツアーみたいそれぞれのガイドの連携できたら… 2、時代でみる 八戸のアート&カルチャー→時代を追うほうがいいが難しいので、スタンプラリー形式でめぐれる→コンプリートで何かプレゼントとか？

- ・ジャズライブ
- ・美術館落語
- ・あります。

そのほか、今後のプロジェクトについてのご提案がありましたらご記入ください。

8 件の回答

- ・広報アートファーマーに参加したい
- ・1年間の来場者が積み上げたり、描いたり、張り付けたりと自由にデコレーションしてできあがる未知の作品を毎年作っては燃やすイベント
- ・英語のガイドしてみたいです。
- ・上記のような活動。
- ・月に1回くらい、お茶を飲んでおしゃべりしながら簡単な作業のお手伝い（チラシの袋詰めとか）するのは楽しいかも。また、各プロジェクトとの交流会は、定期的で開催してほしいです。
- ・八戸に何とか映画館を復活させたいので、その為に映画プロジェクトがあったら参加したいと思いません。
- ・アートファーマープロジェクト自体が少なくなっていると思うので、各企画での参加の機会を増やして欲しい。
- ・アートや芸術といった言葉を身近で親近感のあるものを感じてもらえるような、地域の方々が気軽に参加、体験出来るようなプロジェクトを今後もつくって頂けると、作品制作を行う人間としてありがたいなと思いました。参加させていただきありがとうございました。

令和6年度事業計画について

1. 課題

- (1) 4年目に向けた新たな中期運営計画の構築
次期の中期運営計画の構築と、それに伴う事業評価手法の構築。
- (2) アート版地域包括支援センターとしての役割
アート版の地域包括支援センターと呼ぶべき役割の実行に向けた検討。あわせて、アクセシビリティの強化。
- (3) 八戸市民発の多様な芸術活動の創出
アートファーマーを中心とした、市民発の多様な芸術活動の創出に向けた仕組みの構築。
- (4) 周辺文化施設との連携の強化
八戸ポータルミュージアム はっちとの役割分担の再確認。はっちや八戸ブックセンターとの連携の強化。八戸市の文化行政における役割の再確認。

2. 展覧会・プロジェクト・アートファーマー

- (1) 11月に開館3周年を迎えるにあたり、「3つのインパクト」の総まとめとして、ジャイアントルームを全面的に使用したプロジェクト「エンジョイ！アートファーム!!」を「AOMORI GOKAN アートフェス2024」の一環として実施するとともに、コレクションを独自の視点から展示する展覧会「展示室の冒険」を実施。
- (2) 4年目以降に向けて、現在の八戸のアーティストを紹介する企画として、プロジェクトを主体とした「エンジョイ！アートファーム!!」と、展覧会を主体とした「八戸アーティストファイル」を実施。

①コレクションを紹介する展覧会

春「展示室の冒険」、秋「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」、
春～冬「コレクションラボ (007～010)」

②現在の八戸のアーティストを紹介するプロジェクトと展覧会

春～夏「エンジョイ！アートファーム!!」、冬「八戸アーティストファイル」

③他館から巡回する展覧会

夏「tupera tupera のかおてん。」

④共創パートナーと協働する展覧会

秋「八戸市美術展（八戸市文化協会）」

⑤継続的なアートファーマープロジェクトの実践

夏～秋「野点」、年間「美術館広報部」「美術館ものづくり部」

3. コレクション

(1) プロジェクトのコレクション化（令和4年度からの継続）

- ・プロジェクトで制作した「もの」、写真、映像、再演するためのアーカイブ。
- ・プロジェクトの常設展示。常に人の活動が見えるわけではない。
- ・アーティストが関与したプロジェクト→作品→コレクション。

(2) コレクションラボとコレクション企画

- ・コレクションを用いた実験的展覧会。
- ・新収蔵作品の紹介。
- ・《今後の検討》豊島和子・豊島弘尚・豊島重之に関する企画。モレキュラーシアターなどのパフォーマンスを含める。ICANOFの活動、関連するアーティストの紹介。

(3) コレクションの公開（令和4年度からの継続）

- ・web上での公開。収蔵資料管理システム I.B.MUSEUM の利用。

4. 学校連携

学校連携プロジェクトチーム

- ・学校連携ラボの活発化。
- ・全小中学校生徒の招待の可能性。
- ・《今後の検討》展覧会の開催を前提としたプロジェクト。

5. 大学・高専連携

- ・子育て世代、障がい者など、美術館のアクセシビリティの更なる向上。
- ・大学や高専が有する専門性と美術館が有するアートの専門性の融合による「アートの学び」の活発化による新たな取り組み。

6. 広報・制作物

(1) 小中学校など地域に向けた発信の強化。

(2) web

- ・日々の活動の発信。

(3) 出版物

- ・《今後の検討》イヤーズブック制作の可能性。

令和6年度八戸市美術館運営事業について

1. 事業概要

令和3年(2021年)11月3日に開館した新美術館について、「出会いと学びのアートファーム」としての運営を図る。

開館3年目は「第三の開館」と位置付け、美術館と市民との新しい共創の場の在り方を一緒に考え実践する年とする。

2. 令和6年度の主な事業内容について

(1) 美術館の企画運営 【予算額：58,187千円】

企画展、巡回展、コレクションラボを開催するほか、各種プロジェクトを展開する。

(主な内容)

- ①令和6年度展覧会開催経費(展覧会実施委託料、実行委員会負担金、広告料等)
- ②令和7年度以降開催予定の展覧会準備にかかる経費(展覧会実施委託料、旅費等)
- ③各種プロジェクト実施にかかる経費(謝礼、旅費、委託料等)
- ④収蔵作品の修復、調査研究等にかかる経費(美術品修復作業委託料、作品運搬作業委託料、写真撮影委託料等)
- ⑤「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」開催にかかる経費(謝礼、負担金等)
など

(2) 施設の維持管理 【予算額：165,148千円】

展示室や収蔵庫の空気環境を整えるとともに、施設の適切な維持管理を行う。

(主な内容)

- ①光熱水費
- ②清掃・警備等業務委託
- ③総合案内業務委託
- ④施設・設備の保守点検にかかる経費(消防設備、エレベーター保守、空調機器、樹木管理等)
- ⑤施設の小破修繕料
など

(3) 美術館の管理運営 【予算額：49,973千円】

日常的な施設管理や貸館業務等を行う。

(主な内容)

- ①貸館業務
- ②備品購入費
- ③八戸市美術館運営協議会・八戸市美術館美術品等収集委員会の運営
など

令和 6 年度八戸市美術館の企画について

1. 概要

令和 6 年度の展覧会については、収蔵品をより深く味わうコレクション展をはじめ、人気の高い巡回展や教育版画、また八戸圏域の作家を取り上げる展覧会を開催する。

2. 令和 6 年度の主な企画内容について

(1) 展覧会

①企画展「展示室の冒険」

再開館後 2 回目となる収蔵品のコレクション展を開催。自ら選択した順路で鑑賞できるような仕掛けや鑑賞アイテムを設置し、来場者の方々が、作品との出会いを楽しみ、一点一点を味わえるような鑑賞体験を提案する。

■会期：令和 6 年 4 月 20 日（土）～6 月 24 日（月）

■展示作家：明山應義、岩館千松、久保田政子、佐藤淳子、下村正二、関頑亭、鷹山宇一、月館れい、東郷たまみ、時任垂矢子、戸村茂樹他 30 名程度

■展示作品：油彩画、版画、陶芸等 収蔵作品 70 点程度

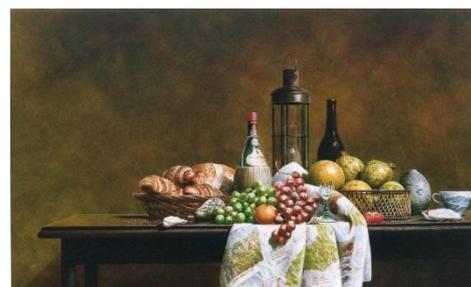
■主催：八戸市美術館



岩館千松《たなばた》



明山應義《母子 G》



下村正二《流れる時の記念碑》

②巡回展「tupera tupera のかおてん。」

絵本やイラストレーションを中心に活動するクリエイティブユニット「tupera tupera (ツペラツペラ)」による、「顔」をテーマにした展覧会で、人気絵本の原画をはじめ、映像作品や体験型の立体作品などを展示する。

■会期：令和 6 年 7 月 6 日（土）～9 月 1 日（日）

■主催：青森朝日放送

■共催：八戸市美術館



《かおカオス》

©tupera tupera 撮影：吉次史成



《床田愉男》

©tupera tupera 撮影：阿部高之



《かお 10》より《朝田パン介》

©tupera tupera 撮影：阿部高之

③企画展「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」

学校教育のなかに版画を広めた「教育版画運動」。八戸では、坂本小九郎の指導の下、1950年代～1970年代にかけて実践された教育版画が、国内外で高い評価を受けた。

本展では、当館が所蔵する八戸での教育版画作品を中心に、八戸の教育版画が生まれる礎となった青森県内の版画教育の実践を紹介する。

また、招聘アーティストとともに市内の子どもたちが制作した作品を展示する。

■会期：令和6年10月12日（土）～令和7年1月13日（月・祝）

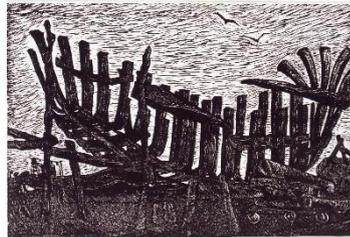
■展示作品：八戸市美術館・青森県立郷土館・五所川原市教育委員会所蔵の教育版画ほか

■招聘アーティスト：THE COPY TRAVELERS(ザ・コピートラベラーズ)

■主催：八戸市美術館



湊中学校養護学級生徒《虹の上をとぶ船 総集編Ⅱ
星空をベガサスと牛が飛んでいく》



江陽中学校生徒《船 竜骨》



THE COPY TRAVELERS
《あの日のコピーサイズ》（映像）

④八戸アーティストファイル展

八戸圏域に在住、または出身の表現者を紹介する展覧会で、出展する表現者は、市内の民間画廊やギャラリー、画材屋、私立美術館など、表現者をよく知る地元文化人が推薦者・審査員となって選定する。これまで、地元で紹介されることが少なかった出身表現者を、今回、美術館として取り上げることで、広く八戸のアートシーンの「今」を紹介する。

■会期：令和7年2月15日（土）～4月7日（月）

■出展者：8名（地元在住6名、出身者2名）

■主催：八戸市美術館

⑤AOMORI GOKAN アートフェス 2024 八戸企画「エンジョイ！アートファーム!!」

県内の5つの美術館・アートセンターが実行委員会を組織して実施する「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」の一環として、八戸市美術館のコンセプト「出会いと学びのアートファーム」を体現する企画を実施する。美術館を象徴する空間「ジャイアントルーム」で、市内に在住する5人のアーティストが、来館者と共につくり、楽しむプロジェクトを実施する。

作品鑑賞やジャイアントルームに滞在する作家との交流を通して、絵画や版画、写真、ダンスなど、多様なジャンルのプロジェクトを繰り広げる。

■会期：令和6年4月13日（土）～9月1日（日）

■出展者：磯島未来（ダンス）、漆畑幸男（絵画・版画）、しばやまいぬ（版画）
蜂屋雄士（写真）、東方悠平（現代アート、インスタレーション）

■主催：AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会、八戸市美術館

⑥八戸市美術展

八戸市文化協会との共催により、全館を使って市民が創作した書道や絵画、写真など多彩なジャンルの作品約 500 点を展示する。文化協会会員を中心とする展示に加え、広く市民や若手アーティスト、学生等の作品発表の場を提供する。

■会期：前期 令和 6 年 9 月 19 日（木）～9 月 22 日（日）

後期 令和 6 年 9 月 26 日（木）～9 月 29 日（日）

■主催：八戸市文化協会、八戸市美術館

⑦コレクションラボ

八戸市美術館の収蔵作品の中から厳選した作品を、毎回テーマを設定し、展示に合わせた実験的なプログラムを行いながら、展示入替の期間を除き通年で展示することで、多彩なコレクションに気軽に触れられる機会を提供する。

展覧会名称・会期	内容
007「大久保景造と八戸文化」 令和 6 年 3 月 23 日（土）～7 月 8 日（月）	画家、詩人、ジャズ喫茶主人、カルチャー雑誌編集など多方面な文化人である大久保景造を紹介する。
008「彩る書」 令和 6 年 7 月 13 日（土）～10 月 28 日（月）	書を感じ、楽しみ方を探り、鑑賞者それぞれが作品に彩りを見出す展示とする。
009「リビングルーム」 令和 6 年 11 月 2 日（土）～令和 7 年 2 月 24 日（月）	家具を置いてリビングルーム風にした展示室に、収蔵作品を展示し、暮らしの中に美術を取り入れることを提案する。
010「新収蔵作品展」 令和 7 年 3 月 1 日（土）～6 月中旬	令和 6 年度新規収蔵作品を展示する。

⑧スケジュール

	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3
企画展・巡回展		展示室の冒険		かおてん		八戸市美術展		教育版画展				Artist File
AOMORI GOKAN アートフェス	エンジョイ！アートファーム！！											
コレクションラボ	大久保景造と八戸文化			彩る書			リビングルーム				新収蔵	

(2) プロジェクト

①アートファーマープロジェクト

美術館の企画や運営に能動的に関わる市民スタッフの「アートファーマー」と美術館スタッフが一緒に、美術館での学びを活かして、アーティストとの共同創作活動や来館者へのガイドなど、美術館と人、作品と人、人と人をつなぐ様々な取組を展開する。

■主なアートファーマープロジェクト

プロジェクト名	内容
建築ツアーガイド	アートファーマーの個性を活かしたガイドで八戸市美術館の建物の魅力を来館者に伝える。ガイド役と来館者との会話が弾む、双方向型のガイドツアー。
美術館のアクセシビリティ向上プログラム	アクセシビリティ（近づきやすさ、利用しやすさ）をテーマとし、年齢、性別、障がい、国籍などに関わらず、市民が美術館を利用しやすい環境をつくる。展覧会に合わせ、「手話通訳付き展覧会ガイドツアー」などを実施する。
野点プロジェクト	陶芸家・美術家のきむらとしろうじんじん氏と一緒に、「その土地の、その日の、そのときの風景の中で」参加者みんなでお茶を楽しむ「野点」を運営する。
(仮称) 美術館広報部	美術館のコンセプトや建物の特徴を学び、体験を通して展覧会や美術館等を SNS 等で発信する。メンバーによる、ガイドブックの作成を行う。
(仮称) ものづくり部	館内にもものづくりができる場所をつくとともに、中心街での中高生の活動場所としての活動を推進する。

②学校連携プロジェクト

小・中・高校の教員、美術館の学芸員、専門家が「学校連携プロジェクトチーム」をつくり、子どもたちの力を伸ばして自ら新しい価値をつくり出せる人を育てるために、美術館を活動拠点に、学校の授業で役立つツールやプログラムづくりのほか、学校教育だけでは実現できない取組を行う。

③大学・高専連携プロジェクト

市内の大学・高専が有する専門性と美術館の専門性を掛け合わせて、社会人と学生と一緒に学び、社会で実践できるプログラムを展開する。また、子育て世代、障がい者や高齢者など、誰もが美術館を利用しやすい環境づくりなど、美術館のアクセシビリティを高める取組を行う。

(3) その他

元気な八戸づくり市民提案制度「共に創る！アートのまちづくり魅力発見事業」

八戸歴史文化発信事業実行委員会（提案者・事務局：八戸クリニック街かどミュージアム）と連携し、同事業に係る美術館の「共創パートナー」を募り、各々で行われている文化イベント情報を紹介・連携する取組を行う。

スマートフォンアプリ「LINE」を利用したイベント情報発信や、HP「はちのへヒストリア」との連携、「街なかアートマップ」の作成・配付、パートナーミーティング等を行う。

展示室の冒険

1. 企画概要

再開館後 2 回目のコレクションを展示する企画展。本展では、より作品 1 点 1 点を味わう鑑賞体験を提案する。また、美術館が決めた順路に限らず、来場者が自らの意思で展示室を進み自分なりに鑑賞できるように、「ゲームブック」*をヒントにした仕掛けや鑑賞アイテムを設置する。

来場者は、“展示室の管理人”からの招待状で展示室に入り、作品と出会い、作品の様々な見方に触れていく、という設定。

*ゲームブック：書籍型のアドベンチャーゲーム。物語の場面ごとに選択肢が用意されており、読者の選択によって物語の展開が変化する。

会期：令和 6 年 4 月 20 日（土）～6 月 24 日（月） 58 日間

会場：八戸市美術館（ホワイトキューブ・ブラックキューブ・展示室前室）

観覧料：一般 800 円（700 円）、高校生以下無料、割引対象者 500 円

（）内は、20 名以上の団体料金。

※有料駐車場ご利用の運転手 1 名に団体料金適用。

※割引対象者=八戸市内および近隣町村（三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）在住の 65 歳以上の方／障害者手帳をお持ちの方とその付添者 1 名。

※フリーパス「かおパス」 一般 1,200 円、割引対象者 800 円（本展覧会に限り何度でもご覧いただけます。）

展示作家（予定）：明山應義、岩館千松、久保田政子、佐藤淳子、下村正二、関頑亭、鷹山宇一、月館れい、東郷たまみ、時任亜矢子、戸村茂樹 他 30 名程度

展示作品：油彩画、版画、陶芸等 収蔵作品 70 点程度

主催：八戸市美術館

後援：県内 10 社程度

会期中プログラム：（1）アーティストトーク「下村正二の冒険」・「明山應義の冒険」

（2）学芸員によるギャラリートーク

（3）みんなでじっくり鑑賞ナビ



岩館千松《たなばた》



明山應義《母子 G》



下村正二《流れる時の記念碑》

tupera tupera のかおてん.

1. 企画概要

クリエイティブ・ユニット tupera tupera (ツペラ ツペラ) による「顔」をテーマにした展覧会。『かおノート』『こわめっこしましょ』など「顔」をテーマにした人気絵本の原画をはじめ、映像作品「かおつくリズム」、謎の「床田愉男 (ゆかだゆかお)」との顔遊びや、2メートルの大きな顔が並ぶ「かお10 (テン)」など、平面・映像・立体とさまざまな表現の作品を展示する。

本展は青森朝日放送による特別貸館で実施するため、入場料収入は無いが、展覧会企画料等の支出も無しとなる。美術館内での展示にとどめることなく、絵本を接点に、八戸ブックセンターと連携した事業を展開することで、街への波及や、企画自体に厚みを持たせる。

会場：八戸市美術館（ホワイトキューブ、ブラックキューブ）

開催期間：令和6年7月6日（土）から9月1日（日）

観覧料：一般 1,000 円（900 円） 小中高生 600 円（500 円） 3歳以上 500 円（400 円）

3歳未満無料 ※（）内は団体料金

主催：青森朝日放送

共催：八戸市美術館

企画協力：PLAY! MUSEUM

協力：八戸ブックセンター

後援：青森県教育委員会、八戸市教育委員会、青森県 PTA 連合会、一般社団法人青森県私立幼稚園連合会、一般社団法人青森県保育連合会、コミュニティラジオ局 BeFM



《かおカオス》

©tupera tupera 撮影：吉次史成



《床田愉男》

©tupera tupera 撮影：阿部高之



《かお10》より《朝田パン介》

©tupera tupera 撮影：阿部高之

風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画

1. 企画概要

1951年～1990年代後半にかけて、小中学校の教員によって学校教育のなかに版画が取り入れられた「教育版画運動」があった。八戸では1956年～1970年代に、坂本小九郎氏の指導の下で行われた教育版画の実践が評価を受け、生徒たちが制作した作品が当館に収蔵されている。本展では、当館所蔵の教育版画作品に加え、八戸の教育版画が生まれる礎となった青森県内の版画教育の実践を通して、青森の教育版画の歩みを紹介する。

※タイトルは坂本小九郎著『版画は風のなかを飛ぶ種子』から引用している。

会 期 | 令和6年10月13日(土)～令和7年1月13日(月・祝)【93日間】

会 場 | 八戸市美術館ホワイトキューブ、ブラックキューブ、ジャイアントルーム

入 館 料 | 一般 1,000円、高校生以下無料 ※市内在住 65歳以上、障がい者手帳をお持ちの方等は半額

時 間 | 10:00～19:00 (最終入館は18:30)

休 館 日 | 毎週火曜日、年末年始

主 催 | 八戸市美術館、RAB青森放送(名義主催、予定)、

助 成 | 芸術文化振興基金

出展内容 | 八戸市美術館所蔵教育版画作品、五所川原市所蔵教育版画作品、那須歴史探訪館寄託資料、今純三、江渡益太郎、加藤武夫、浅沼弘、関野準一郎ほか 作品・資料約200点

展示構成 | 第1章 青森県の版画教育実践(所蔵作品+五所川原市教育委員会、青森県立郷土館より借用)

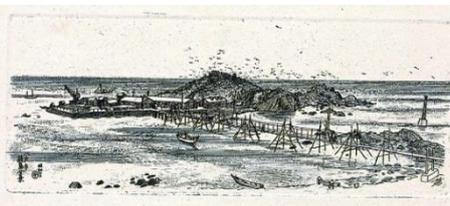
青森県内の版画教育の実践者の作品や、五所川原市教育委員会所蔵の教育版画作品を展示

第2章 八戸での教育版画の実践(所蔵作品+青森県立郷土館、青森県立美術館より借用)

坂本小九郎氏の指導のもとで制作された、八戸の教育版画作品を紹介する。

- 関連イベント(案) | ①トークイベント「教育版画運動とは？」ゲスト：町村悠香氏(町田市立版画美術館学芸員)
 ②トークイベント「青森県の教育版画運動」ゲスト：太田原慶子氏(青森県立郷土館学芸員)
 ③坂本先生の教え子座談会(征谷伸夫氏ほか2名)
 ④井川丹サント・インスタレーション「あわいの声ー《虹の上をとぶ船 総集編I・II》との対話ー」
 上演デー：R5企画展「美しいHUG!」で教育版画を元に制作した楽曲を上演。

その他 | 教育版画の作品集を発行(H28年度に無料配布の冊子を制作したが、1シリーズしか掲載されておらず、すでに在庫もないため、他のシリーズも掲載し、来館者が会期中～会期後も購入できるようにしたい)



左：今純三《燕島》1938、青森県立郷土館所蔵

右：八戸市立湊中学校養護学級生徒《虹の上をとぶ船 星空をペガサスと牛が飛んでいく》1976

2. 関連プロジェクト

教育版画展の関連企画として実施。「生活を見つめて表現する」という教育版画の根底にある精神を学び、自ら表現する機会として、アーティストとともに、市内の小中高生が作品を制作する。アーティストとの出会いや地域のリサーチ、共同の作品制作や、版画や複製の可能性を探る作品制作を通して、子どもたちの協調性や社会性を育む機会の提供、また、作品制作や展示することの喜びを提供することを目的とする。完成した作品は展覧会の作品として展示する。



左：映像《あの日のコピーサイズ》2019

右：《机上の空間》2019 東京都現代美術館での展示風景

実施期間 | 令和6年8月

メンバー | 市内の小中高生 15人～25人程度を募集

招聘アーティスト | THE COPY TRAVELERS
ザ コピー トラベラーズ

八戸アーティストファイル

1. 企画概要

八戸や圏域に在住、または出身の表現者を紹介する展覧会。表現者は、八戸市内の民間画廊やギャラリー、画材屋、私立美術館など、表現者をよく知る地元文化人が推薦者・審査員となって選定する。団体や文化協会に所属しない表現者や、地元で紹介されることがあまりない出身表現者を取り上げることで、広く八戸のアートシーンの「今」を紹介するとともに、八戸市美術館の文化的人脈や信頼を構築する。

会期中は、表現者や推薦者とのトークプログラムを実施するほか、美大生・若手アーティストと美大受験を目指す若い世代との交流企画などを実施。また、表現者ごとに略歴や作品情報などをまとめたアーティストカードを作成して「ファイリング」し、多様に参照できる「人材バンク」とする。

会期案 令和7年2月15日（土）～令和7年4月7日（日）【46日間】

会場 八戸市美術館ホワイトキューブ

入館料 募金制 アーティストファイルの作成や、若い表現者の交流企画にあてる

主催 八戸市美術館

出品者 | 8名（地元在住6名、出身者2名）

推薦者・審査員(案) | 市内画廊、アート拠点、八戸市美術館

① 展覧会

8名の表現者（出品者）に、ひとり一区画ずつ割り当て、数点の作品の展示と、その人となりが見られるパネル、インタビュー映像を展示。出品者推薦や審査は地元の文化人（市内画廊やアート拠点の運営者等）に依頼する。

〈スケジュール〉4月 推薦員・審査員の就任依頼

～8月 推薦者・審査員に出品者の候補リストアップを依頼

9月 審査会実施 出品者にオファー

10月 出品者の作品調査、打合せ、会場構成考案

12月 広報スタート

2月～4月上旬 展覧会

②会期中プログラム

- ・アーティストトークイベント

出品者と審査員が出演して、作品を語るトークイベント。 会期中3回程度実施。

- ・八戸アートミーティング

世代を超えて、八戸在住・出身の表現者が交流し、つながる企画。出品者のほか、春休み期間であることを活かし、帰省している県外の美大生、美大受験を目指す地元の高校生、地元大学のデザインや建築に関わる学生などに声をかけ、ジャンルや所属団体や出身校を問わず、

幅広い世代が出会い、学びあうことで、八戸のアートシーンの活性化につなげる。

③アーティストファイル（アーカイブ）

- ・その作品や略歴などを紹介するアーティストカードを表現者ごとに製作し、ファイリングする。市内の民間等の文化拠点で次の展示の機会につなげ、後世にわたって参照できるものとする。

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 八戸企画「エンジョイ！アートファーム!!」

1. 企画概要

青森県内の5つの美術館・アートセンターが実行委員会を組織して実施する「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」の一環として、八戸市美術館のコンセプト「出会いと学びのアートファーム」を体現する企画を実施する。美術館を象徴する空間「ジャイアントルーム」で、八戸市に在住する5人のアーティストが、来館者と共につくり、楽しむプロジェクトを実施。作品を鑑賞したり、絵を描いたり、トークプログラムに参加したり、ジャイアントルームに滞在する作家と交流したり、絵画や版画、写真、ダンスなど、アーティストと市民とで、多様なジャンルのプロジェクトを日々繰り広げる。ジャイアントルームを訪れた人々が得る「出会いや学び」が栄養となり、参加者それぞれの感性や創造力を育むとともに、美術館は、その畑（ファーム）として、多様な活動の土壌となり、まちの未来を創造していくことを目指す。

八戸市美術館企画：エンジョイ！アートファーム!!

会期 | 令和6年4月13日（土）～令和6年9月1日（日）

会場 | 八戸市美術館ジャイアントルーム 入場料 | 無料 主催 | 八戸市美術館

参加アーティスト | 磯島未来（ダンス）、漆畑幸男（絵画・版画）、しばやまいぬ（版画）
蜂屋雄士（写真）、東方悠平（現代アート、インスタレーション） ※全員八戸市在住

エンジョイ！アートファーム!! プロジェクト 参加アーティスト・企画案

① 磯島未来（ダンス）

市民の人生ストーリーをもとに、磯島がダンスの振付を考案し、プレゼントする。会期中8日間程度実施。ダンスは、映像で記録・公開のほか、作った振付をまとめて披露するお披露目イベント開催。



八戸市出身・在住。幼少よりモダンダンスを習う。上京後「黒沢美香&ダンサーズ」「ピンク」メンバーとして国内外で踊り、個人では全国舞踊コンクール上位入賞。日本女子体育大学・舞踊学専攻卒業。05年度文化庁国内研修員、08年度文化庁在外研修員として2年間ベルリンに滞在。帰国後、自身が構成・演出を担う「未来.Co」を立ち上げて作品を上演、美術家・音楽家などとも共同作業を展開する他、子どもから大人までダンス経験を問わないワークショップも行う。震災後、三陸の郷土芸能に出会い2018年より金津流浦浜獅子躍（岩手県大船渡市）躍り手。

② 漆畑幸男（絵画）

会期中に、ジャイアントルームで大きな絵を制作。また、漆畑の過去の作品を転移し、市民参加者とともに、漆畑作品集を編集、制作する。



1948 年生まれ。十和田市出身、八戸市在住。馬小屋のある旧家で馬や牛とともに暮らす幼少時代を経て、北里大学畜産学部獣医学科へ進学。青森県職員の獣医師として、家畜保健衛生所などに勤務する。35 歳より絵画制作を開始し、幼少期から親しんだ馬や牛をモチーフとした、物語性のある具象画を描く。第 84 回東光展（2018）30 号会友奨励賞。第 81 回河北展（2018）菅野廉賞を皮切りに、仙台市長賞（2019）、青森県知事賞（2022）、文部科学大臣賞（2023）を受賞。日展入選（2020 年～2022 年）。八戸市文化協会芸術文化褒賞（2020）、八戸市文化賞（2021）。東光会会員。

③ しばやまいぬ（版画）

アーティストが発泡彫刻や版画で「森」をつくり、来場者はその森を歩き「虫探し」をして楽しむ。また、来場者が考案した「新種の虫」を作家が版画にし、さらに森に加えていく。



少女版画作家・イラストレーター。八戸市生まれ。幻想的な世界観で、女子高生を主題とした木板画を創作。大学時代からイラストレーターを志し、型にはまらない表現の道を模索。10 年前から「死ぬまで女子高生の絵を描き続けたい」と思うようになり、棟方志功や坂本小九郎監修の教育版画「虹の上をとぶ船」に感動し、独学で木板画の創作を開始。過去の個展に「疾風少女版画展」（十和田倶楽部、十和田市、2018）、「疾風少女版画展 2」（八通ギャラリー、八戸市、2018）「冬の疾風少女展」（八戸ポータルニュージウムはっち、八戸市、2018）などがある。

④ 蜂屋雄士（写真）

「遺影」を軸に、家族や写真について考え、撮影するプロジェクト。遺影や死生観、写真について考えるラーニングプログラムと、2～3 組の家族と家族写真を撮影するプロジェクトを行う。



1981 年仙台市生まれ、八戸市在住。ウェブデザイナーや写真館勤務などを経て、2013 年フリーランスのフォトグラファーに転身。地元の八戸を中心にフィルムで人々の写真を残す「はちや写真館」を開催。また 10 年以上にわたり夫婦で外出する際に撮影してきた「#僕と妻の定点写真」としてが人気を集める。個展として、「いっしょにつくるはちや写真館」（東北のしごと／GALLERY WAA、十和田市、2020）、「はちや写真館 これまでとこれからと、」（八戸市美術館、八戸市、2023）開催。南郷アートプロジェクトなど市内のアートプロジェクトなどの記録撮影にも携わる。

⑤東方悠平（現代アート）

八戸や近隣に住む外国人技能実習生などの在日外国人とともに、現代における「多様な自由」を考えるワークショップを実施し、そこからイメージされた新たな自由の女神像（おいらせ町の女神と等身大サイズ）を作る。

★東方悠平



1982年生まれ、札幌市出身。2017年より八戸市在住。芸術実践における「遊び」を手がかりに、立体作品やインスタレーション、参加型のプロジェクトやワークショップなどを行う。2008年に筑波大学大学院芸術研究科総合造形領域修了、2023年には東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程を修了。2021年に文化庁の新進芸術家海外研修制度1年研修員としてベトナムに滞在し、リサーチや展覧会を行なった。

また、八戸市にフィリピンなどからアーティストを招へいしてアーティスト・イン・レジデンスを行うAIR-H(2017～)を主宰して、アートと地域との関わり方を探っている。



コレクションラボ事業

1. 企画概要

「コレクションラボ」において毎回テーマを設定し、収蔵作品の中から厳選した作品を入れ替えながら、無料で観覧できる展覧会を実施する。同時期に開催する企画展と関連性のある展示や、展示室の特徴を活かした実験性のある展示を行うことで、様々なアプローチで来館者と美術館のコレクションを繋ぐ取組を展開する。

2. 展示スケジュール・内容

展示タイトル	期間	内容
コレクションラボ 007 大久保景造と八戸文化	令和6年3月23日(土) ～7月8日(月)	画家、詩人、ジャズ喫茶主人、カルチャー雑誌編集など多方面にかかわった文化人である大久保景造を紹介。
コレクションラボ 008 彩る書	令和6年7月13日(土) ～10月28日(月)	墨の世界に浸り濃淡や筆致などを感じながら、作品に面白みや趣の彩りを加える楽しみ方を探る。
コレクションラボ 009 リビングルーム	令和6年11月2日(土) ～令和7年2月24日(月)	家具を置いてリビングルーム風にした展示室に、収蔵作品を展示。暮らしの中に美術を取り入れることを提案。
コレクションラボ 010 新収蔵資料展	令和7年3月1日(土) ～6月中旬	令和6年度新規収蔵の作品展示。

3. その他

コレクションラボ展示の広報、アーカイブ、アートカードの3つの役割を担うポストカードを作成し、館内での配架等、活用する。

<参考> 令和5年度コレクションラボ事業の様子



005 奏でる工芸



006 美の殿堂 鈴木コレクション

プロジェクトについて

1. 概要

美術を鑑賞するだけでなく、アートを紹介した様々な体験を通して、地域コミュニティを耕し、育む人のことを「アートファーマー」と呼び、様々なプロジェクトを実施していく。

開館年より継続している「建築ガイドツアー」のほか、美術館の「アクセシビリティ（近づきやすさ、利用しやすさ）」保障の取り組みとして、手話通訳付きのガイドツアーを各展覧会で実施する。

また、プロジェクトとして、青森5館連携「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」の一環として行う「エンジョイ！アートファーム」（別途記載）と、アーティストのきむらとしろうじんじんと市民とがともに運営し、美術館から地域に飛び出して地域とアートの接点をつくるアートプロジェクト「八戸野点」を実施する。（3年目、最終年）

2. 実施プログラム

[1] 美術館のアクセシビリティを高めるプログラム

(1) 手話通訳付き展覧会ガイドツアー

手話通訳者を招き、手話のサポート付きの対話型鑑賞ガイドツアーを各展覧会で実施する。手話通訳を入れることで、手話母語とする方のアートの理解促進や、感想や質問などの発言を促すことで参画の機会を保障する。また、八戸聾学校や青森県ろうあ協会とも連携・情報交換し、「障がいのある方たちが過ごせる八戸市美術館」に向けた試みを実践する。

期間： 展覧会会期中 1回ずつ×4展覧会 ※打合せ2回

参加費：無料

手話通訳者：青森県ろうあ協会より派遣

(2) アートファーマーによる美術館ガイドツアー

美術の専門家でないアートファーマーだからこそ発見できる視点で、展覧会や美術館の建築等を紹介するガイドを育成・実施。令和5年度は「アクセシビリティ」がテーマのレクチャーやワークショップに参加しながら学びを深め、機会を創出する。

内容：講座（3か月、月1～2回程度）＋ガイドツアー実践（1～2か月の間で複数回実施）

期間：9月以降で実施予定 参加費：無料

専門家案：西澤徹夫・浅子佳英・森純平（八戸市美術館設計者）ほか

[2] プロジェクト

(1) 野点プロジェクト

アーティストのきむらとしろうじんじんが、派手なドレス姿でまちに繰り出し開催する「野点」。参加者はアーティストやスタッフとの交流を楽しみながら、お茶碗をつくり、お茶を飲む。運営は、公募で集まったアートファーマーが行う。令和4・5年度に開催した同プロジェクトを発展させ、内容の充実を図りながら、アートファーマーが企画に主体的に関わる体制づくりを行う。

期間：通年 参加費：無料

アーティスト：きむらとしろうじんじん

(2) エンジョイ！アートファーム →5館連携 AOMORI GOKAN アートフェス 2024（資料2-6参照）

(3) 学校連携プロジェクト

令和6年度は、「学校連携ラボ」を拠点に、プログラムやツールの開発を行ったり、朝鑑賞を推進し美術館で対話鑑賞の実践練習を行ったりするほか、アーティストとの共同制作等を行う。

さらに、これまでの活動をまとめた活動報告冊子を発行する。

◆令和6年度の活動

- (1) 全体会議…活動についての意見交換、プログラム開発等を進める。
- (2) 美術館新聞部…令和3年度から実施している「美術館新聞部」の活動を、令和6年度にも継続する。児童生徒が、独自の視点でアートやまちを取材し、美術館を拠点に発信する。
- (3) 学校連携ラボを拠点とした活動…来館時により分かりやすく展覧会や美術館を楽しんで学んでもらえる美術館活用プログラムの開発を、チームで検証を重ねて行う。開発したプログラムは各校に活用してもらえるように校長会等でお知らせする。
- (4) 鑑賞活動…美術館を訪れた学校へ向けた展覧会案内や対話鑑賞を行う。また、学校の先生や地域密着型コーディネーターが対話鑑賞の実践練習を行う。
- (5) ワークショップ…令和5年度に引き続きワークショップを実施する。
- (6) 活動報告冊子作成…令和2～令和6年度までの活動を報告する活動報告冊子を作成し、市内の学校や県内外の美術館へ配布する。

(4) 大学連携プロジェクト

市内大学・高専の有する専門性と、美術館の有するアートの専門性を融合させ、新たな価値や活動を生み出す「アートの学び」の提供により、人材育成や地域経済の活性化に繋げる事業を展開する。

◆令和6年度の活動

- (1) 三校連携「創作体験ワークショップ」…誰もが気軽に訪れることができる美術館を考えることを目的に、美術とは異なる分野の教員を講師とするワークショップを開催する。
- (2) 学生×社会人のアートの学び講座事業…学生と社会人が一緒に交流し、様々な課題や研究テーマについてディスカッションする場を設け、学生や社会人が美術館での学びを考える講座を開催する。
- (3) 美術館のアクセシビリティ向上事業…子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出するため、八戸学院まちなかラボを活用した取組を行う。

八戸市美術館中期運営計画に基づく評価及び改定について

1 概要

令和2年3月策定「八戸市新美術館中期運営計画」では、開館から3年間の目標設定のほか、評価方法や重点的に取り組むべき事業を定めている。

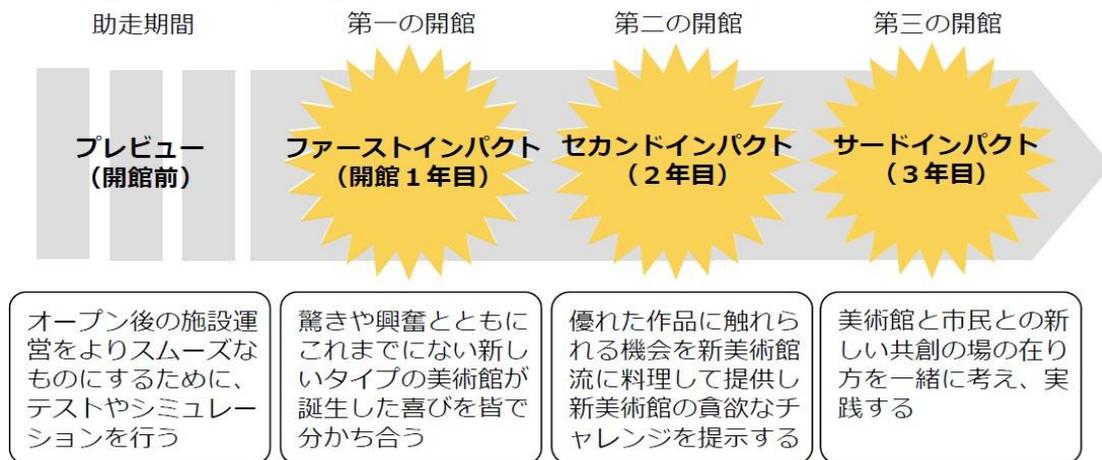
この中期運営計画においては、グランドオープンから3年目までに「3つのインパクト」を打ち出すこととし、その3年間の実績をもとに、指標に基づいて評価を行うものとしている。

また、計画内での想定として、評価・改正時期を令和5年度とし、次期運営計画の運用は令和6年度からを見込んでいる。

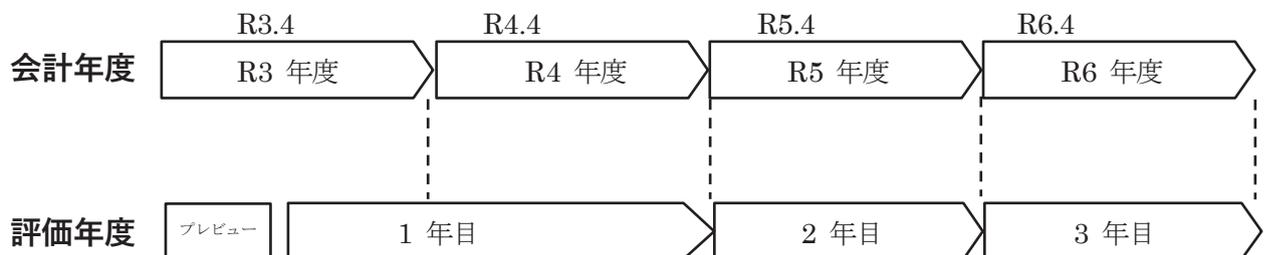
しかしながら、計画時の想定からオープン時期が約半年ずれがあることや、3年目の実績を反映した上で正しく評価をするために、令和5年度に想定されていた評価・改正作業時期を令和6年度へと変更し、次期計画の運用期間を令和7年度からとしたい。

(中期運営計画 令和2～5年度→ 令和2～6年度、次期中期運営計画 令和7～11年度)

① 中期運営計画策定の趣旨（「八戸市新美術館中期運営計画」2P）



② 年度の捉え方



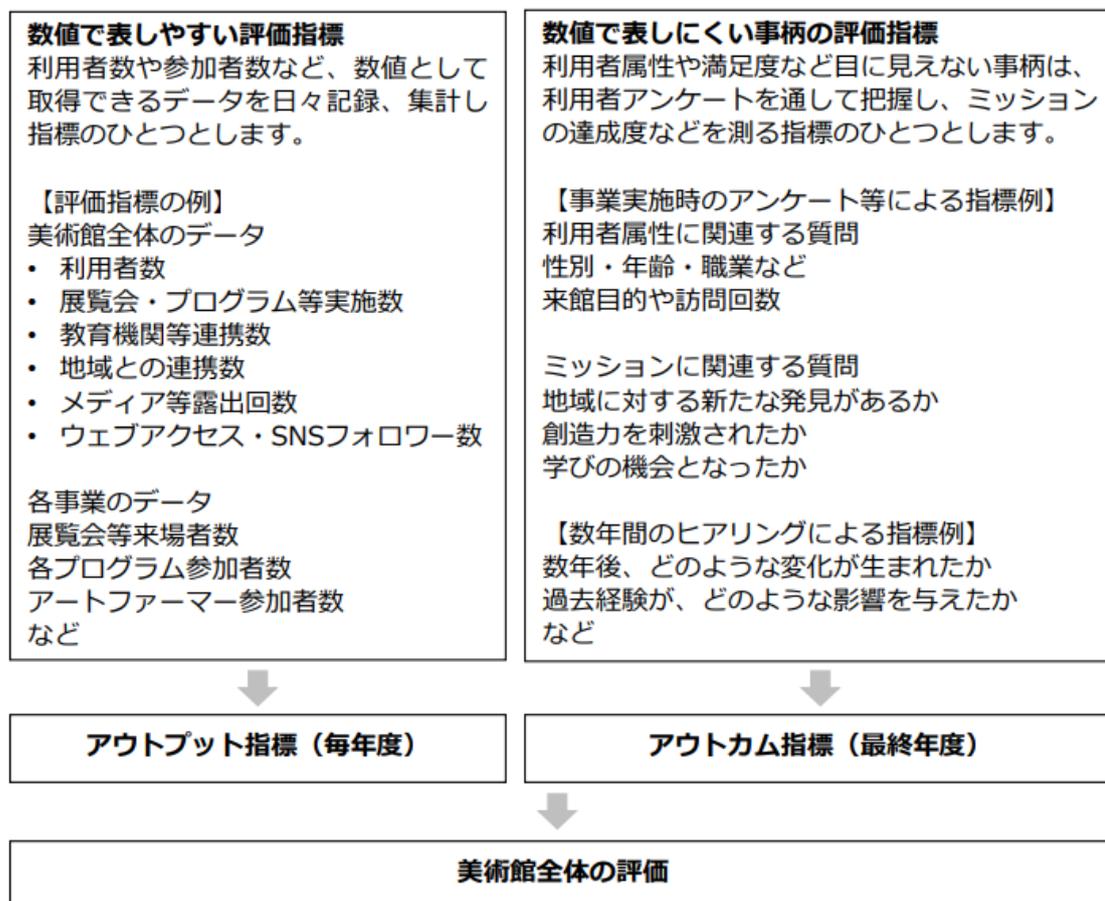
2 評価指標の設定及び事業評価の手法

当美術館の事業評価にあたっては、入館者数や収支バランスの向上といった画一的な基準を評価指標とするのではなく、市民や地域の方々にアートを通してどのような機会を提供できたのか、地域に対してどのような価値を創出することができたのかなど、美術館が事業を通して地域において果たすべき役割をどの程度達成できたかで評価する必要があり、当美術館が果たすべき最終目標達成に向けて、どれだけの人員と予算を投資して（インプット）、どのような事業を行い（アクティビティ）、どのような成果を生み出したのか（アウトプット・アウトカム）という関係性を明確に示しながら事業評価を行うこととしている。



(1) 評価指標

利用者数や参加者数など、数値として取得できるデータを日々記録・集計した、数値で表しやすい評価指標と、利用者アンケートや事業の参加者等にヒアリングを行い、経験から得たものや事業後の自身の変化など、数値で表しにくい事柄の評価指標の2つを組み合わせ、美術館全体の評価及び各事業の個別評価を行う。



※八戸市新美術館中期運営計画 P16

(2) 中期評価の流れ

ステップ1	各事業の「アクティビティ」、「アウトプット」、「中間アウトカム」を分類する。 ▶事業評価整理表の作成例（資料3-2）
ステップ2	評価指標（定量・定性）により各事業を個別評価する。 ▶個別評価票の作成例（資料3-3）
ステップ3	中期評価では、個別評価票の結果を踏まえ、計画期間内に実施した事業がどのように波及したか、アウトカムでの評価を行い、美術館全体の方向性や事業展開のあり方について検討し、次期の中期計画の策定に反映する。

(3) 評価アドバイザーによる支援について

事業評価にあたっては、評価アドバイザーの支援を受けて評価することを想定。

4 中期運営計画の改定スケジュールについて

時期	内容
令和6年9月頃まで	評価アドバイザー支援を受けて評価を行う
令和6年10月頃	第2回八戸市美術館運営協議会 ・中期評価の結果報告
令和7年3月頃	第3回八戸市美術館運営協議会 ・次期中期運営計画（案）の提示

個別評価票(作成例①)

事業名	まるごと馬場のぼる展 描いたつくった楽しんだニヤゴ!	
実施期間	2022年7月2日(土)~8月29日(月)	
目的・内容	絵本「11 ぴきのねこ」シリーズで知られる漫画家・馬場のぼる(1927~2001)を様々な側面から紹介する展覧会を開催。原画や原稿、立体作品など 474 点を展示した。	
アクティビティ	独自の事業モデル構築と実践	
	3回のオープンで打ち出す3つのインパクト+1	○
	アートを介した社会参画のプラットフォーム形成	
	小中高校や大学・高専との連携強化	
	その他	○
評価指標1 ※定量評価	評価指標:入場者数 21,062 人 (うち未就学児、小中学生は 4,763 人で全体の 22.6%)	
評価指標2 ※定量評価	関連イベントの参加者数 ①講演会『11 ぴきのねこ』と馬場のぼる先生ーその世界を支えたユーモアと故郷・青森ー 参加者数 55人 ②鑑賞プログラム「見て、読んで、おしゃべり鑑賞会」 参加者数 6人 ③「11 ぴきのねこ写真撮影会」 参加者数 延べ700人 ④「11 ぴきのねこラッピングバスがやってくる」 開催日数 18日間	
評価指標3 ※定性評価	来館者アンケート(回答数:162人) ・回答者のうち、「とても満足」67%、「満足」26%、「どちらともいえない」7%であり、「不満」「とても不満」と回答した人はなかった。 ・人気の絵本「11ぴきのねこ」の展示であったことから、「おもしろかった」「かわいかった」「ほのぼのした」、「子供も楽しんでいた」という声が多かった。 ・フリーパス「かおパス」を利用して、20回程度来館したリピーターの方がいた。	
アウトプット	アートの力を体感し、創造性を喚起させる場が提供できている	
	地域・社会課題に対して積極的なアプローチがなされている	
	八戸固有の作品やコンテンツが生み出されている	○
	多様な主体が参加する場が創出されている	
	効率的で持続可能な施設運営がなされている	
	その他	
中間アウトカム	アートを通じた学びの拠点をつくる	
	新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる	
	クリエイティブ人材が集まる環境をつくる	
	その他	○

自己評価	<ul style="list-style-type: none">・八戸圏域を代表する漫画家、馬場のぼるの大型回顧展となり、県内外から多くの来館者が訪れた展覧会となった。来館者の2割以上を中学生以下の子供たちが占めており、子供たちに人気の事業であった。・「八戸中心商店街・三戸町まるごとニャゴ！まっぷ」を作成し、八戸市と三戸町の中心街回遊を図るなど、館外における地域活性化にも寄与できた。
------	--

個別評価票(作成例②)

事業名	アートファーマープロジェクト 建築ツアーガイド	
実施年度	令和3年度～	
目的・内容	八戸市美術館の建物の魅力や特徴を、みんなで一緒に学び、学んだことを他の誰かに自分の言葉で伝える実践(ガイド)を通して、美術館と人をつなぎ、新たなコミュニティを育むことを目的に実施。	
アクティビティ	独自の事業モデル構築と実践	
	3回のオープンで打ち出す3つのインパクト+1	
	アートを介した社会参画のプラットフォーム形成	○
	小中高校や大学・高専との連携強化	
	その他	
評価指標1 ※定量評価	ガイドスタッフの参加者数 参加者数 19名 (内訳) 1期生 10名 2期生 6名 3期生 3名	
評価指標2 ※定量評価	<p>活動実績</p> <p>○令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座4回(館長や設計者による講座、コミュニケーションについてのワークショップなど) ・ガイド実施4日(毎月最終土曜日。その他イベント開催時などに不定期で実施) ・ガイド後は毎回、茶話会(振り返りの会)を開催して次回以降の活動に活かしている。 <p>○令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座4回(館長や設計者による講座、弘前れんが倉庫美術館ボランティアガイドとの交流会など) ・ガイド実施12日(毎月最終土曜日 ①10:30～ ②13:30～) ・ガイド後は毎回、茶話会(振り返りの会)を開催して次回以降の活動に活かしている。 <p>○令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座4回(館長による講座、十和田市現代美術館げんびサポーターとの交流会など) ・設計者による建築ツアーと交流会 ・手話出前講座の受講 ・ガイド実施 13日(毎月最終土曜日。その他イベント開催時などに不定期で実施) ・ガイド後は毎回、茶話会(振り返りの会)を開催して次回以降の活動に活かしている。 ・建築紹介パンフレット「知りたい！ハチビ！ vol.1」発行。 	
評価指標3 ※定性評価	<p>1. アートファーマーアンケート調査結果より(回答数 7人)</p> <p>「地域に対する新たな発見があるか」</p> <p>ほとんどが「発見があった」と回答しており、具体例として「八戸にこうやって市民の方と交流できる場所があること」「県外から転居してきて間もなかったので、先輩アートファーマーの皆様から地域の情報を沢山教えて頂き新たな発見だらけでした。」という声があった。</p> <p>「創造力を刺激されるような体験があったか」</p> <p>ほとんどが「あった」と回答しており、具体例として「アートファーマーのお仲間と活動する中で、それぞれの着眼点の違いに刺激を受けました。」「案内ひとつにもたくさんの見方があり、人の数だけ目の付け所があった。」という声があった。</p>	

	<p>「能動的な学びの機会となったか」</p> <p>ほとんどが「学びがあった」と回答しており、具体例として「様々なバックグラウンドを持っている人だからこそ話せることを実際に生で聞いて、自分と比較して違いを知ったり、違いについて考えたりすること」「アートに関わる人たちとの出会いにより、知らなかった事を教えていただくことができ、また、様々な考え方や感じ方がある事を学んだ」という声があった。</p> <p>プロジェクトへの参加がどのような影響を与えたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトに参加することで、自身にとってよい変化があったと回答した人は100%であり、「気持ちの変化」や「行動の変化」、もしくは両方の変化があったと回答している。 ・「気持ちの変化」の具体的な内容として、回答件数が多い順に「人とのつながりを感じた」(3件)、「やりがいを感じた」(2件)、「前向きな気持ちになれた」(2件)、「自ら行動してみようと思えた」(2件)となっている。 ・「行動の変化」の具体的な内容として「新たに自分でイベントを企画・運営した」「様々なプロジェクトに参加するようになった」という回答があった。 <p>2. 建築ツアーに参加した来館者の反応</p> <p>「個性を生かしたガイドが魅力的で、何度も足を運びたくなった」「新しい美術館の在り方に疑問があったが、ガイドから美術館の設計意図などを聞き、考え方が180度変わった。新しい美術館の活動を応援したい」といった感想が聞かれている。ツアーに参加した方が、ガイド後のお茶会にも参加して交流を深めるケースもあるほか、ツアーへの参加がきっかけでアートファーマーになった方もいる。</p>	
アウトプット	<p>アートの力を体感し、創造性を喚起させる場が提供できている</p> <p>地域・社会課題に対して積極的なアプローチがなされている</p> <p>八戸固有の作品やコンテンツが生み出されている</p> <p>多様な主体が参加する場が創出されている</p> <p>効率的で持続可能な施設運営がなされている</p> <p>その他</p>	○
中間アウトカム	<p>アートを通じた学びの拠点をつくる</p> <p>新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる</p> <p>クリエイティブ人材が集まる環境をつくる</p> <p>その他</p>	○
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・10代から70代まで幅広い年代がアートファーマーとして参加し、設計者や美術館スタッフ、他館のボランティアとの交流など、年間を通じて「多様な主体が参加する場」を創出することができる。 ・アートファーマーは来館者が美術館をより身近に感じるきっかけとしての役割を果たしており、アートファーマーが美術館と来館者をつなぐことで、誰もが新しいことに挑戦したくなる雰囲気醸成に寄与している。 ・多様な主体とかがかわる活動を経て、アートファーマーの中で自主企画の機運が醸成されつつあるなど、効果的なプログラムであると考えられることから、今後も継続して取り組んでいく。 	

個別評価票(作成例③)

事業名	学校連携プロジェクト	
実施期間	令和3年度～	
目的・内容	<p>児童・生徒の個々の価値観や美意識を醸成して、一人ひとりがアートを通して自ら答えをつくり出していく力を育むことを目指すために、八戸市内の小学校・中学校・高等学校の教員と美術館学芸員、専門家により「学校連携プロジェクトチーム」を結成しました。チームメンバーが自由に訪れることのできる「ラボ」を美術館内に設け、情報交換を行うとともに、全国の美術教育の事例などの研究や、教育現場で活用できる美術教育のためのプログラムやツールの開発・実践を行います。</p>	
アクティビティ	独自の事業モデル構築と実践	○
	3回のオープンで打ち出す3つのインパクト+1	
	アートを介した社会参画のプラットフォーム形成	
	小中高校や大学・高専との連携強化	○
	その他	
評価指標1 ※定量評価	<p>評価指標：プログラム内容</p> <p>①学校連携プロジェクトチーム 全体会議を開催して情報共有や対話型鑑賞を行うほか、プロジェクトを企画運営した。</p> <p>②大きな絵プロジェクト 小中学生・高校生による共同制作。八戸東高校の美術部員がジャイアントルームで虹色の大きな木の絵を描き、事前に小中学生から募集した「八戸の実」を縫い付け、巨大な絵を試作、展示した。</p> <p>③小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト 小中学生・高校生が美術館に集まり、同じ素材を使い、「こころ」をテーマに作品を制作。完成後は高校生がファシリテーターとなり小中高生混合の鑑賞会を行った後、教員が工夫を凝らした展示を実施。</p> <p>④美術館新聞部プロジェクト 小学生と高校生が新聞をつくるプロジェクト。インタビューや記事制作、新聞社の訪問、新聞名の検討、キャラクターづくりなどを経て、創刊号を刊行した。</p>	
評価指標2 ※定量評価	<p>評価指標：プロジェクト参加者数</p> <p>①学校連携プロジェクトチーム 参加者数17人</p> <p>②大きな絵プロジェクト 参加者数 195人</p> <p>③小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト 参加者数67人</p> <p>④美術館新聞部プロジェクト 参加者数7人</p>	
評価指標2 ※定性評価	<p>評価指標：参加児童の感想</p> <p>①大きな絵プロジェクト ・(高校生) 新美術館に美術部として貢献することができ、誇らしい気持ちになった。多くの人に見てもらい、郷土愛だけではなく、描くことの面白さも感じてくれたらうれしい。ま</p>	

	<p>たやってみたい。</p> <p>・(中学生) みんなと協力して作品を完成することができ達成感を感じた。今後、このような活動があれば積極的に参加したい。</p> <p>③小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト</p> <p>・(小学校教諭) 普段とは異なる空間で、普段見慣れない中高生のお兄さん、お姉さんの学ぶ姿を目の当たりにしながらの活動はこれからの学びにつながる機会となった。事実、夏休み明けの授業では、高校生が語っていたように、自分の言葉で作品鑑賞を語り合う1年生が出てきている。</p>	
アウトプット	アート力を体感し、創造性を喚起させる場が提供できている	○
	地域・社会課題に対して積極的なアプローチがなされている	
	八戸固有の作品やコンテンツが生み出されている	
	多様な主体が参加する場が創出されている	
	効率的で持続可能な施設運営がなされている	
	その他	
中間アウトカム	アートを通じた学びの拠点をつくる	○
	新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる	
	クリエイティブ人材が集まる環境をつくる	
	その他	
自己評価	<p>・異学年や異年齢の児童生徒や学生たちと交流をもつことで、より良い人間関係の育成につながっている。</p> <p>・異校種の教職員が互いの良さを取り入れることで、相互の指導の幅が広がり、教職員の意識改革にもつながっている。</p>	

